(明治四十二年九月二十八日第三種郵便物認可)
(毎月曜日休刊)　年中無休刊

京城日報

八日夕刊

定價　一部金三錢　一ヶ月金六十五錢
發行兼編輯人　印刷人　發行所　京城太平通一丁目　合資會社　京城日報社

○石井特使徴募兵檢閲

石井特使の一行は大統領ウイルソン氏の招待にて一日ホワイトハウスの觀覽所に於て首都華盛頓の市街を行進せる三萬人のコロピーク徴募兵を檢閲したるが大統領ウイルソン氏を初め米國内閣員は總て此の行列の先頭に立ちたり(華盛頓電報)

○米國又も英佛へ貸附

米國は英佛兩國に對し又復各二億弗宛を貸與せり(紐育電報)

○獨人陰謀團捕縛さる

市俄古其他の都市にて社會主義者の假面を被り煽動的印刷物を印行しつゝありし獨人の團體は警察の搜査を受け其の重立ちたるもの捕縛せられたり(紐育電報)

○岑春煊を政治顧問に

岑春煊氏は妥協を前提として愈々北上を承諾したり、馮氏は岑氏を最高政治顧問に移し永く北京に止まらしむべしと曰へり(北京特電)

○孫文氏等の逮捕命令

李督軍は浙江督軍の依頼に依り聚黙督長に對し浙江に於ける内亂煽動者として孫文氏及び屈映光氏外數名の逮捕を命じたり(上海特電)

○安慶に兵亂勃發す

安徽省安慶に兵亂勃發し形勢重大なりとの報あり(上海特電)

○露軍後方部隊の潰亂

露軍が結局如何なる地點まで退却すべきかは豫想する能はず、後方部隊は盛んに潰亂しつゝあるが後方部隊中の強硬分子を鎭壓せば全隊の退却を阻止するを得べしと信ぜらる(露都電報)

○獨軍露都に殺到せん

倫敦に於ける觀測

倫敦に於ては一般にリガを占領せる獨軍は今や首都ペトログラードに殺到せんと企圖しつゝあるものなりと信じ居れり(倫敦電報)

○露國外相巴里訪問

露國外相[illegible]氏は巴里に於て開會せらるべき聯合國軍事會議に出席の爲め佛國を訪問するに決せり(露都電報)

○佛國内閣一部改造

佛國リボー内閣は近く一部を改造し社會黨領袖二名を入閣せしむべし(巴里電報)

○外調幹事任命

外交調査會幹事左の如く任命せられたり(東京電報)

海軍中將　栃内曾次郎
外交調査會幹事を命ず

○安達公使出發

白耳義駐劄公使安達峰一郎氏は夫人令息及び從者を伴ひ八日東京出發赴任の途に上れり(東京電報)

○早大新制認可

早稻田大學新制度は七日附を以て其筋より認可せられたり(東京電報)

○堂島取引所理事長

大阪堂島米穀取引所理事長高倉藤平氏は七日東京麹町區富士見町の別邸にて逝去したり(東京電報)

○芳賀博士通過

芳賀[illegible]博士は八日清津より會寧を經て間島に向ひたり(會寧特電)

○廣瀬主計監

廣瀬主計監は八日[illegible]丸にて出發歸任の途に就けり(釜山特電)

○南京駐箚米國領事

南京駐箚米國領事ゼハソン氏は八日朝入港の新羅丸にて釜山着、午前十時三十分發列車にて北行したり(釜山特電)

○島院管理者問題

[illegible]院の施行と共に島院の所定面の[illegible]らんことは豫ての希望なりしを以て其筋に於ても[illegible]所に據れば市民の[illegible]なる筋より聞く所に據れば[illegible]を認めらるゝことに内定し[illegible]依つて學校組合管理者選任問題は多少の遲延を見るならんと(鳥致院特電)

○御誕辰御祝詞

八日は李太王殿下の御誕辰日なるより長谷川總督は同日午後零時藤波通譯官を徳壽宮に遣はし御祝辭を申し述べしむる處あり又た松永總務局長官は同日午後零時三十分徳壽宮に進みて親しく御誕辰の御慶びを申上げたり

○朝鮮經濟概況

總督府の調査に依る七月中の鮮内經濟界の概況を聞くに同月は繭の出盛期に相當せる上米は内地及び露國必需品の注文にて其の輸移出額は共に百八十萬圓に上りたるを以て輸移出總額は前月に比し二百五十九萬圓を増加し輸移入貿易額は[illegible]代用食料品の減入により五十二萬圓を減少したるも綿糸布の騰貴は之に對する鮮内仲間取引の頻繁なることゝ出盛期に際せる商況は内地市況の活況に連れ取引殷盛を呈せると依り著しく資金の需要を喚起し月末民間貸出は前月末に比し四千三百萬圓銀行貸出額は前月に比し三百萬圓を増加し金融界は例年の夏枯期に似ず異例なる繁忙を呈したりと雖も民間預金は生産品の増收と之が價格の騰貴に伴ひ農家の收得を増加せる結果前月末に比し三十六萬圓の増加を示せり、隨て朝鮮銀行券は月末發行高四千二百六十萬圓となり前月末に比し二百七十六萬圓の増進なり

○軍司令官南下

松川軍司令官は高級參謀山本中佐副官野津大尉を隨へ九日午前八時四十分龍山驛發列車にて左記南鮮駐箚各部隊の視察を遂げ同十五日夜歸任の豫定なりと

▲十日步兵第八十聯隊大邱分隊▲十二日蔚州守備隊▲十三日鎭海灣要塞司令部及び重砲大隊▲十四日馬山鎭海重砲兵大隊馬山分隊

○立花師團長檢閲

第十九師團長立花中將は參謀山崎大尉を隨へ九日午後八時龍山驛發にて十日十一日の兩日に亙る平康附近に於ける野砲兵第六中隊實彈射擊演習檢閲を遂げ同十二日歸任の筈

○古海總長視察

古海總務總長は八日午前十時發警鐵?管所に到り教習狀況の視察を爲せり

○石塚總裁東上

石塚東拓總裁は鈴木參事を隨へ八日午前八時三十分南大門驛發列車にて東上したり九月末若くは十月初旬一應滿洲を旅行し更に東上す

○岡本參謀長動靜

目下北鮮駐箚部隊の檢閲並に地理實査の途にある第十九師團岡本參謀長は七日城津を經て十五六日頃羅南に歸着、第二十七聯隊野砲兵第二十五聯隊等を檢閲し

○亥角警務官歸京期

官房亥角仲藏氏は九日午後九時南大門驛發列車にて別府より歸京す可し

同十九日歸任の豫定なりと

○郡參事退職

慶尚北道[illegible]郡參事[illegible]氏は[illegible]

○慶島縣教育視察團

廣島縣教育會主催の鮮滿教育視察團は三十餘名にて[illegible]九月二十七日[illegible]京城ホテルに於て[illegible]視察中の處十日午後七時三十分南大門驛着にて[illegible]

○田村氏の訃

大阪每日新聞京城支局長田村貞一氏は客月二十七日以來胃疾加療の爲め同地滿鐵病院に入院中の處餘病併發せるか加療薬石効を奏せず遂に八日午前零時十分逝去す

補助貨不足

飯泉國庫課長談

近く十萬圓輸入鮮せん

昨今の朝鮮銀行券は漸次膨脹の趨勢を辿り四千五百萬圓に上り居るも

▲補助貨の流通

増大に伴はざるを以て鮮内各地の補助貨不足は免かるべからざる事實也、殊に國境地方の義州、新義州並に平壌方面より其の補助貨不足の聲頗る高き度の各地に比し著しきに似たるが然も要するに朝鮮内を通觀すれば其の不足の聲程大なるほど補助貨は缺乏し居れりや否やは疑はしきなり、要するに朝鮮にては銀貨の潰しの事實は殆ど之れなき如く、見込み七百萬圓強の補助貨は依然

▲鮮内に流通

し居るを以て也、然るに或る地方にては之等の補助貨が殆んど影を潜めし如く偏よれる方の多くの補助貨が他地に移動せしも何等か重要の特種理由あり其の地方の事實なき限り（一）補助貨不足の聲に惑はされ一般に其の所持の分を容易に手放さゞる事（二）穀類の季節に入り補助貨不足の不便を見越し既に補助貨の蓄積をなせる者ある事（三）少しく利益を得んとする補助貨蒐集者ある事其他偏在するものにして補助貨の事實は推測的に其の事實なるべく唯之等は推測的に其の事實あるべきものとて個人は何等の對應策を執る事を得ず、從つて補助貨不足の聲を益々高めつゝある也、鮮銀としては其の救濟の爲め日本銀行の手に依り補助貨の請求は全く引き續き

西鮮一巡り

別府生

平壌當面の四問題

▲刻下の平壌に於て經濟上の問題を除き、當面の案件を求めんか、行政區域の擴大、公會堂の新設、第二期下水工事、大同江架橋等に候はん、小生は是等の諸問題に就て一々評論解說する餘裕を有せず、併せて之を提げて平壌に入りし以上何だか無責任の氣が致すので、乃で概略の報道と些少の見を述べ候

▲平壌府行政區劃の擴大は平壌の膨脹に伴ふ當然の施設たり、人口の増加する事を致し候

▲平壌公會堂の新設は大典記念事業として本田府尹の熱心提唱せし所に候、而して之は元來平壌の發展上必ずしも急務なるが如く候はずと雖も現在の實情に於ては

○鐵道增俸調査

滿鐵京城管理局にては物價騰貴の爲め下級從業員の生活難の幾分を救濟する意味より雇員以下の薄給者に對して一割乃至二割の增俸を行ふべく目下夫々手續き中なりと尚ほ滿鐵本社にては此程下級者の增給を行へり

○鮮銀の異動は

未だ何等決定せず

鮮銀にては十月末迄に佐藤副總裁の歸朝せる頃同行青島支店に於て異動を見る事ならんと噂され、[illegible]

▲緩和の一策

として一般銀行券の増發を圖り居れるが補助貨不足は内地に於ても更に見らるゝ問題にして造幣局の鑄造も容易に追付かざる狀態なれば當分は鮮銀の補助貨の入鮮を見るべく、到着の上は直ちに各店に分配し其の不足の幾分を補ふ考へなり

○東拓滿洲支店位置

東拓滿洲支店は來る十月一日より開店すべき大連支店は近江町に決定したるが奉天支店は目下候補家屋物色中にて定まらず但し城内小西關附近ならんと

○東拓總會期

改正定款を附議すべき東拓臨時株主總會開期は一兩日中に決定する筈なるが多分二十五日となるべし

○商船鮮航增發

大阪商船會社に於て目下朝鮮航路に從事しつゝある汽船は御用船を併せて五隻なるが斯くては一般貨主の滿足を與ふる事を得ざるのみならず目前に迫りたる出廻期に至らば必ずや船腹増加の要求あるべきを豫期し同社は愈々來る十一月中旬より六十噸の汽船を増加すべく七日大阪支店との間に其の協定成立せしを以て其の内七八百噸級二隻は釜山を基とする阪神直航路に使用する筈

○棉糸布の暴落と朝鮮

鮮銀營業當局談

▲非常の打擊

を受けし貿易商は[illegible]

棉糸布が一俣に付百圓方の暴落を告げたるは内地斯界に重大の影響を與へ朝鮮にてもありと極端の悲觀をなすものあり、暴落後約十日を過ぎ若干市場の鎭靜を見たる今日鮮銀營業局に付其の銀落の朝鮮財界に及ぼせし影響を聞くに國で大して云へば朝鮮の受けたる打擊は激甚ならず何となれば在鮮の棉系布は其の大部分が三百四十五圓臺に上りし商賣當時の移入に非ずして其以前の安價時代に仕入れしため也從つて今回の暴落したりとて之れを仕入値に比すれば尚ほ若干の利益を見る位なり又鮮銀としては從來棉系布を擔保として

▲内地人一萬、鮮人三萬を抱擁する大平壌に百名以上の集會場所なきは不體面と云ふべし、然も百名以上の集會は既に屢々起りつゝあるに似たり、而して現在に於ける其種の會合は劇場に於て行はれつゝありと云ふ、頗る不便なるのみならず劇場の寄附が必ずしも得らるゝ事ばかりにも非ず、常に

▲平壌公會堂の新設は大典記念事業として本田府尹の熱心提唱せし所にて、唯色々の故障や寄附金の集らざる爲め敷地は既に三年前に決定せしに拘はらず、尚ほ新築の手を染めざる

▲下水工事は第一期工事は既に竣功し、朝鮮各都市中の一都市として第一の完成をなし、第二期工事を提げて平壌の中央部に水施設を施し以て府内の衞生狀態に候、其の完成に今一段の工事を要する次第にて大正八年度より十年度迄に市街地の隅々に其の施設を加へ、大正五年度迄に大同江改修を施し候

▲大同江架橋問題は其の末來永年平壌府民の熱望せる所にして、對岸に事業會社や工場が出來たより、大同江架橋は必然來るべき府營の施設なるべし、果然大正六年度より其の國費架設案は既に鐵道局の手に成り、二三年中に着手の豫定なりしも、尚ほ未だ不明なれど確實の報に接せず

▲唯其の架橋位置を何れに求むべきかは未定の條件たり、(一)渡船場通り(二)陸路通り(三)規欄橋の三ヶ所中の一を選ぶ事は平壌府民として

▲大同江架橋問題は其の來年度より着手の豫算に入る事は略ぼ確實となり[illegible]

□日清生命保險好況

【第一回(永代)保険の成績】

日清生命保險株式會社は明治四十年創立せられ現社長は前田正名氏にして、大正六年三月大阪俳優(?)並に保險業者の如き知名の士に依り大阪に於て創立せられ既往十一年間に三千萬圓餘の契約高を收め前年度の新契約高は實に五十萬圓に達し創業以來死亡支拂金額は二百萬圓に達せり、[illegible]の成績を得たるは世人之を知らざる所なり

▲擔保評價

は昨今の暴落値に對する貸出しを有し居るが若し之れを今回の暴落値に依り擔保評價を下げんとせば擔保付の貸出しは多く之を減額せざるべからず然るに斯かる措置は貿易商の痛手なるのみならず尚ほ多少の餘裕あるを以て[illegible]

同社の保險は新規の保險にして契約の一定年限に達せば死亡保險金として保險金額の五割を被保險者に支拂ひ其後は更に保險料の拂込を要せず被保險人死亡の際契約金額を支拂ふものなれば普通一千圓を契約して一千五百圓の保險金を得べく而も保險料は普通養老保險に比して却つて低廉にして頗る

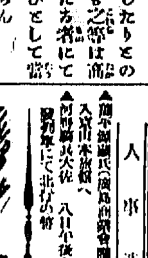
▲大正五年度の新契約高は實に[illegible]萬圓に達し、所長横田瀨三郎氏は明治四十五年にして所長として内外の同社京城出張所の設置は明治四十年に創立され、昨年度の新契約高は實に商業會議所月報に依れば在鮮各保險會社中第一位を占め、同社の保險は[illegible]

人事消息

▲關東都督府[illegible]氏(廣島商業會議所副會頭) 入京山本旅館へ

▲河野騎兵大佐　八日午後九時四十分南大門驛發列車にて北行の筈

彼れ是れ



○露國の革命は、今や全く戰爭と資本に對する革命となれり。急進社會黨は、戰爭の原因は、資本家の作るものなりとし。總ての戰爭は同一と籠信し居るが故に、ケレンスキー氏の獅子吼も、効力頗る曖昧なるが如し。更らに、此の魔物を知れる獨逸が、極力之れを利用しつゝあるは、云ふ迄もなければ、露國は依然として、其の危期より脫する能はざる也。

○曾て熱京にありて、巧みに其の辣腕を内外に揮ひ、其の退くは當時の騷動を煽動して、陰然として張敷の亂の種子を培ひ、漸く躍進した那捌の島の如き、獨逸センツェは、今や更らに、那破羅制公使として、新にスカンディナヴィヤ半島に、其の爪牙を研かんとす。危險なる哉。

○支那は獨墺に宣戰せる勅校には、敵國人を先生と尊敬し、敵國人の病院には、堵をなして治療を乞ふもの、日に多く、敵國の俸給を受くる多大の收入は、敵國人をして滿足せしむ。矛盾か。否氣か。

●献上畫の作製成る
畫材を平壤に＝光榮ある金觀鎬畫伯

御大典記念として全國文官一同より畏き邊りに献上すべき各殖民地の風景畫の製作を依囑せられたる東京美術學校より特に選ばれて

▽朝鮮の風景 を描くの光榮に浴したる平壤の金觀鎬氏は先づ畫材を全鮮中に於いて四圍の風物秀麗閑雅の觀あり且つ二十七八年役の古戰場たる平壤に採り六月初旬より何れに到るも畫趣たらざるなき

▽牡丹臺附近 を逍遙すること月餘に及び熟考想を練りて構圖をとゝのへ、牡丹臺を染めなせる朝々の翠滴たらむばかりなるが瑠璃と澄む清らかなる浿江の水に影を映して水郷の夏の類ひなく美しき七月初旬より製作にかゝり

▽專念執筆 を續けて此程漸く完成するに至れり、献上畫は練光亭の先き牡丹臺廻遊道路附近にある九若亭より牡丹臺及び水源地綾羅島を望みたるものにして全山の翠の美しきが清澄にして悠々たる浿江の倒影して一點塵りなき七月の空の色と共に恍惚として人を魅するの趣きあり殊に

▽點景として 浮碧樓の朱欄薄赤う幽かに浮き出でたる、牡丹臺下の緩なだらかなる波打際のほとりに裝束から縮げたる洗濯女の立てるなぞ面白く畫面の前に立ちて一見すれば蒼鬱な風物、駘蕩たる氣分畫幅に溢れて所謂柳都の風光を寫し得て妙なるものあり、金觀鎬氏は

▽同畫の製作 に方り午前九時頃の精神爽快なる時を選びて執筆せるものゝ由、畫は四五日中に緘封の上同氏自ら携行上京する筈也と

●金觀鎬氏の近作（題未定）

▲附記● 献上畫は追つて撮影の機を得なば本紙に其の寫眞を掲ぐべく茲に同氏の近作（題未定）を紹介す可し

●朝鮮僧侶大歡迎會
東京佛教護國團と各宗聯合會の協同にて主催

東京佛教護國團にては各宗聯合會と協同にて朝鮮寺院各本山總代として東上せる金九河氏以下九名の鮮僧を招待して七日午後三時より芝增上寺方丈にて大歡迎會を開けり先づ記念撮影に次ぎ一同齋潔心經を誦し堀尾增上寺管主、村上專精博士、堀内中將其他各宗教大學々長各宗派部管長家等二百餘名の來會者あり席定まるや廣津新藏氏、安藤鐵腸氏其他の歡迎辭あり金九河氏答辭を述べ天皇陛下の萬歳を三唱し精進料理の配膳あり撤宴後、姜大蓮、李晦光兩氏の日本佛教の指導の下に朝鮮佛教の振興を期する旨の所感演說あり午後七時散會せるが十一日は一行は宗教學校の見學をなす等なり（東京特電）

●首相夫人病勢重態
體溫降下せるも嗜眠狀態繼續

寺内首相夫人瀧子の方は其後の容態捗々しからず尤も今日の所危篤と云ふには非ざれど病勢重態にして首相を初めとし令息陸軍步兵中佐寺内壽一氏、次男同中尉毅雄氏及び兒玉伯同夫人澤子、廳羽子爵夫人須惠子の二令嬢、柴田家門氏夫妻枕頭に詰切り七日朝來大山公母堂、山内侯其他見舞客數十名に達せり又た首相夫人病氣に就き柴田家門氏は語りて曰く、病症は初めは輕微なる腹膜炎なりしも發熱甚だしく衰弱加はり食事進まず症狀進み七日朝は體溫三十七度二分に下り脈調なれども嗜眠狀態繼續し居れば安心なり難しと（東京特電）

●官印を偽造す

金南尾水稷東町酒類製造業鄭忠圭は本年陰二月十九日頃釜山西町印判屋にて酒川郡邑内面長及び郵便所の印判を僞造し之を使用して三月十六日土地證明事務を僞造し同地の李性和を欺罔し二十圓の債務を免れ更に陰五月十五日同樣文書を以て廿五圓を詐取し越えて六月廿九日には釜山地方法院酒川出張所の受付番號印及び登記所の印を僞造し尚七月廿六日には馬山新町に於て同出張所の公印を僞造し翌月四五の兩日に亙り土地所有權保存登記濟及び土地賣渡證、借用證等を僞造して同地の李洪祚を欺き金二百圓を騙取すべく約束を整へ前金として金六圓を受取りたる事發覺し目下酒川憲兵分遣所にて取調中

◆初秋の日曜日◆
何處へ

入梅の蒸し返しのやうに降つたり歇んだりして居た雨もすつかり霽つて八日の朝は久し振りで淺黄色に晴れた空から冷やりくと初秋の風が吹いて來た炎暑から新涼へ―九日の日曜あたり◆郊外に杖を曳くのに大した苦しみもあるまい

◆茸狩りに◆ ◇奬忠壇へ◇ ◇蟋蟀は鳴く◇ ◇果の實盛◇ ◇植物園の◇ ◇千花百草◇ ◇何處も秋◇ ◇らしい趣◇

秋の遊びの初便りを齎らして來るものは京城附近の茸狩りである、蟋々と鳴く虫の聲を聞きながら秋の色草咲き亂れる奬忠壇附近から裏山傳ひに南山の森林に分け入ればしめじ、初茸などの草に隱れて居るのを見る初茸は此のあたりは素より市街から離れて淸涼里に行けば王妃の墓の手前の右手の山に大分ある

◆汽車で行くところでは 永登浦附近にもまだいとか 鷺島に行けば今林檎、葡萄の眞ッ盛り紅黄紫菁の大玉小珠が累々として實つてゐるのは何んとも言へぬいい眺めである、鷺島の模範場支場や東拓出張所では飽まで用意して誰とも言はず京城で買ふとは餘程廉い値段で賣つて呉れる一日の行樂を擴にして歸り途に取り立ての果物籠を提げて來る事が出來る

◆市中の遊び場所としては 秘苑の動植物園などよくなつた、動物園では暑さに弱つてゐた寒帶動物も漸く少し元氣が出た、である、植物園には秋の千花百草が愛嬌者の猿公などは時を得顏に騷いでこよなく美しい、景福宮の博物館なども見頃、北門外の洗劍亭など少し早いが山から落ちて來る水の色にも秋らしい趣きを觀る事が能きる

●山本氏一行
虎狩準備整ふ
社員三名先發

既報の如く船成金山本唯三郎氏の計畫になりし朝鮮虎狩は準備整頓し八日社員新島弘義氏外二名先發として京城に向へり而して新島氏の報告あり次第一行愈々出發の事に確定すべしと（大阪特電）

●格闘して逮捕
豪遊中の四犯賊

島根縣簸川郡平田町生れ住所不定前科四犯三原富太郎（四八）は本年三月永登浦分監を出獄し各地を徘徊中八月初め水原の鮮人宿にて泊り合はせたる某鮮人の現金四十五圓を掏り取り八月十一日龍山榮町宮山武盛方に忍び込み金指環一個外三點（三十一圓）を窃取し同月二十日には漢江通り十五番地鐵道官舍佐藤力之助方にて衣類雜品廿二點在中の行李一個（二十七圓）を窃取し贓物は僞名入質し彌生遊廓にて豪遊中を格闘の末龍山分隊の憲兵に逮捕せられ取調べの上檢事局へ送られたり

●女裝して遊興
盗んだ女物の始末に窮りて

滋賀縣愛知郡秦川村生れ住所不定前科三犯無職小川初次郎（三七）は永登浦分監を出獄して三日目なる八月十二日午後八時半頃京城若草町石川克太郎方にて電報配達夫が電信配達の爲め家人を呼びたるに折柄入浴中にて不在中なる旨を隣人より聞きゐたる際個通り蒐り配達夫の立退きたる後同家に忍び込み衣類九點（三十七圓）を窃取し内男物丈けは僞名入質したるも女物の襦袢と腰巻は處分に窮したるより之れを著用し上に自己の衣類を着して此の間龍山彌生遊廓にて遊興中下に著用したる女衣類より龍山分隊の特務に怪しまれ引致取調べの結果前記の次第を自白するに至り又も身柄は裁判所送りとなれり

●高倉氏遺骸著

東京にて病死したる大阪米穀取引所理事長高倉藤平氏の遺骸は八日大阪に著し天王寺小宮町の同邸に入れり（大阪特電）

（附記）故高倉氏は現に米穀取引所理事長たる外、有隣生命、換資火災各保險會社長にして各銀行會社數ヶ所の重役を兼ね又た一面に株式仲買業を營み實業家として斯界に知られたる人なるが行年僅に四十四歳にして逝く、せしば惜むべき事なり

●絹糸成金
脱税百萬圓
税務屬等拘引

名古屋絹絲界の大成金と稱せらるゝ近藤友右衛門の脱税事件に就き名古屋税務署勤務の税務屬佐藤精及び近藤商店員等三名拘引せられたるが脱税額は百萬圓に上れりとの説あり而して事件猶ほ擴大すべき形勢なりと（名古屋電報）

●強慾の養父を鍬で殺害す

愛媛縣喜多郡柴村谷口玉吉（六七）の養子孝助（三九）は家督相續をなさんと企て養父玉吉を鍬にて殺害したること發覺し大分縣別府にて逮捕せられたり猶ほ此の養父玉吉といへるは强慾一點張の男とて村内の憎まれ者なりしと云へり（別府電報）

●順化院より（三）
矢鱈に恐がる 解らず漢

順化院の繁昌を來すのは毎年初夏の五月頃から始まつて初秋九月に頂點に達する、傳染病繁昌のクライマックスは九月が絶頂で十一月中旬からだんく減じて來る

■此の點 から見ても秋は各々方御用心が肝要である、然し猩紅熱とジフテリアだけは此の例外で毎年寒い冬期に襲うて來る、今年は幸ひにして恐るべきコレラ病が現れぬけれども一朝虎疫に襲はれると順化院は眼を廻す、順化院が理由もなく

■世間に 恐れられたのも主として明治四十年四十一年のコレラ大流行の際入院患者が死亡したからである、併し患者は主として手遲れの重症患者が擔ぎ込まれたので之れを以て順化院を恐がるのは理由なきことである、尤も傳染病患者は主として重症なれば

■死亡率 も從つて高い道理であるけれ共幸ひ内地人の死亡率は平均百人中の十四人、鮮人の死亡は百人中の三十六人である、内地人の割合に尠ないのは主として衛生思想が發達して居て病氣と知ればすぐ驅け付けるからである、全くのところ早く

■根本的 の治療をすれば早く治る、赤痢などは發病三日以内ならば三週間で癒る、チブス、猩紅熱、ヂフテリヤなどは一刻も早い方がよい、一日遲るればそれだけ危險の度を增加するのは何の病氣でも同じことである、それから又た順化院の

■無暗に 誤解されるのは傳染病を出した人が自家の消毒をやられることである、それに隱蔽から發覺されるとである、又た病院の建物中に隔離されて面會が自由に能きぬと云ふ點もある次には交通遮斷をやられる等も主なる

■原因で あらう、併し何も地獄に案内される譯ではなし立派に完全な消毒から藥劑から人眼から揃つて居るから病氣に罹つたら安心して往くがよい病院では京城府以外の人が來れば入院料は倍額をとつて居るそれだけ

■萬事が 充分に出來てゐるのである、こゝまで順化院を譯もなくピクくものでゐるのは解らず漢のはなしである、之れだけ云つても解らぬならば論より證據一度擔がれて行つて見たまへ…は些と酷すぎるかも知れぬ

讀者文藝（一等に五十錢分賞品を呈す）

▲川柳「池」

○貸證が時效の頃に落ち魄れる　（一等）京城和泉町　白樂天

濟生醫院買つて力落ち　利川　守山

借り倒す口實如何仲件　京城　南夢

猿人の母人何時も乳母がなり　森村　松月

灯ともし頃

▲朝鮮に居れば朝鮮語さへ解れば大丈夫だと安心して居た外國人宣教師達は近來日本語を知らねば不自由だと感じて來た▲それかあらぬか近頃はコツソリ個人教授によつて研究して居る人も尠なくないが中にはわざくく東京にまで出掛ける位の特志家も現れて來た▲特志家とは梨花學堂の創立者たるアペンセル嬢である▲それに今一つの有力なる日本語研究會は例の日本通のスミス牧師を先生とする人達だそうで▲此の會の會員は時々日本語のみ使用する茶話會を開催し『キモノ』『アリガト』『ハラキリ』位ゐはお茶の子だそうな▲手製の菓子で甘黨の天狗共を擊退した山田德鎭氏はお萩餅などのことはおくびにも出さず『觀月の茶筵に臨まれたるを喜こび無月なるも』と前置して『愁を下げてゐられると▲お客もさすがれども心得り月今宵』と大に留飲宗匠ぞろひのことゝて『一月よりも團子うれしき今宵かな』

商況

債券現物特電　公債直取引　深川在米特電　東京期米特電　大阪株式　大阪三品特電　大阪期米特電　下關期米特電　[illegible]

雜報

●露貨三百六十

●染料の其後

●市價の騰貴を促す

●更に念頭になき物價調節令

●粉紅、幾分引締る

●約百箱内外に達し

●鮮人雜貨　大小之が痛手

●槳は眼先軟調

●鐵板低落す

●需要季外れ　内地高の影響

●精白更に不勢

●穀物納札値

●下關相場

●京城正米

●市場零聞

▲保合伸悩む

▲依然動かず　强硬の歩調を變へず

▲一向影響せず　益々强硬

▲期近の前途　中限は大取組

●南大門の廻穀

●釜山穀物

●生魚市場

●仁川期米

▲八日前場（保合）

▲止より十八圓高の移り

▲買思惑

▲渡し米蒐集に支障を來す

▲白露節無事

▲同一米の賣買に百四、五十丁の差を生ず

仁川米豆取引所　八日の十一月限

生果市場

小賣白米

白米標準値

千仲買店　仁川港町

確實　仁川米豆取引所仲買人　廣澤正六郎

仁川米豆取引所仲買人　仲買店

仁川米豆取引所仲買人　今村兌次郎

ナ仲買店

呆れた女房　慶北安東郡府一して……醜聞……へらるゝに至り……家財道具を賣り拂ひ……旅費に各地を巡り眞淑の所在……

●連絡船上陸客　七日午前九……

募集規程

晴れ

文展と院展 京阪畫家 （下）

◆都路華香氏は大汐の後の漁村と云つたやうな表かい夏の海の感じを出すさうだ渡邊公觀氏は紀州坂本吉寺の繪巻物を模寫すといひ、天草旅行とも傳へられる村上華岳氏は唐時代の繪と紅顔の美少年を題材として選んだ代悲白頭翁の意味を竹内鳴鳳氏は小傑の夏採り山元春擧氏は柳ケ瀬附近の寫景

◆富田溪仙氏は例の城に首牧と人物及び風神雷神を一流の筆致で描くらしい菊池契月氏は乳の春、佐野五鳳氏の滿洲風景、西井敬岳氏は海、三題西湖の夕顔と木曾の風俗、林文塘氏は原田の花、西山翠嶂氏は大原女、池田浩雪氏は支那風俗と山水、川端春翠氏は海と山、懷堂氏は山北、川北霞峰氏は奥吉野を描く今春吉野に遊んだ時中の千本櫻下は巳に葉櫻となつてゐたが奥千本西竹庵に至る沿道は老櫻が三々伍々風なたる老杉の間に咲き初めた幽雅なる春色に多大の興味を惹いてこれを巧く表現しやうと努めてゐる山下竹齋は古都の春で嵐山は奈良南圓堂附近それに徳川時代の人物及風を配し賑かな中に古都のあはれを現はす、中島春僊氏は海、佐々木春浪氏は帆船、中野春葉氏は大原女、中村春搗氏は田の川、竹田黄葉氏は夾竹桃

◆西田百豊氏は時代競馬の圖で此の圖を作るために再三上加茂神社に詣で競馬の装束から馬を寫生したさうだ七人の騎手十頭の馬匹それに持たせ五色の旗を六曲一双に納めるそうして畫題は樂書物語に則て馬競べとづけるらしい

◆西小澤鳴氏は淀川三十石を主題に徳川時代の人物を配し六曲一双に描く

◆田畑秋湊氏は六曲一双を梓張で羅浮の仙人の圖を作る一本の野梅は根本を描き一本の野梅は頭を描きそれに月を一輪と仙人を描くのである小林寒林氏は京都名所、松本仙擧氏は海と山二題、大村廣陽氏は鹿群、山内以靜氏は菊畑、岡本蕉雨氏は湍洲の瀬際、速水松琴女史は徳川末期の髪洗ふ女を出品すと

隣を交てゝゐる小村大雲氏は甲冑武具の研究に沒頭してゐるから何かそれに關した畫題らしい庄田鶴友氏は北丹波に井口華秋氏は今春旅行の南支にヒントを得て南國情調の繪巻を何れも苦心最中である

◆八田高容氏の一乘寺の春、利知の秋松本虹影氏は夾竹桃と鶯鳥三木翠山氏の唐人物、中居曠谷氏は鞍馬山の野頭、佐藤雄符氏は梅に鶯、奥村木樂氏は柿紅葉などを若い畫家の熱心は鑑査の結果どれ位い酬はれるか

◆大阪の畫家は文展院展の亂れて大萱で目下奮闘の最中、野田九浦氏は眼病女が苔むしたる草原の路に濡れつゝ日光を辿つゝ神詣でする圖を二曲一双に執筆赤松麟作氏は圍末定裸體の女を岡本大更氏は馬上の女武者を金森觀陽氏は竹林の六曲一双、平野光雲氏の開眼供養いづれも文展へ出品、晃南氏は堺の魚市松本華羊女史は淀君を院展へ島成園女史は院展へ一騎打で名乘を揚るさうだ畫題は黒髪で二尺五寸長さ六尺五寸の大作島御幣氏はいなづま、草野芦江氏は三尺幅に等院山口草平氏は後室と題し寺院の木彌陀如來が安置されある薄暗い背面を描きいづれも院展に出品其他矢野橋村氏等も院展に出品する事になつた、さうして之等院展に出品する人々は情實積弊の鬱陶しい文展には愛想が盡きたといつてゐる

後藤一派の菅楯彦氏も院展の方へ出品するといふ噂である（大阪）

留守中に縊死

京城府中島町二丁目三十五番地商職黒田竹之助内縁の妻たる山口縣佐波郡ツ（三五）は去る四日七時頃夫竹之助が稼ぎ先より未だ歸らざる不在中自宅内に於て縊死を遂げ居りたるを何にも知らざる竹之助は夕刻歸宅せしに

水彩畫展覽會を觀る

◆榊崎東策君の水彩畫展覽會が八九の兩日南山町の京城ホテルの一室に開かれた、總數四十餘點、内半數は既に賣約の札が付いて居た

◆諸材は大抵京城の近郊が多い、君の繪には非常に出來不出來がある丈けそれだけ前途がある樣に思はれる、概して難のすくない繪だ色彩に於て今少し大きな變化が欲しい。

◆全體の調和が肝腎だと思ふ、出品中『暮れゆく河面』『冬の夕暮』『綠陰』『雨後』『白菜畑』『景福宮の一角』『秋色』等がいゝと思た、其の内『冬の夕暮』『景福宮の一角』は君の作中秀逸と言ひ度い。

◆君は京城中學の出身にして、繪畫研究の爲め近く上京される相な、君の前途に幸多きを祈る―とみ―

◆獵季が近くなつた

何處が好いか＝猛獸狩の外人團體＝内地からの出獵者

朝鮮に於ける狩獵は來る十月一日より解禁せらるゝに付各狩獵家は既に銃器の手入れ獵犬の教練に専精を凝らし準備に着手せるのみならず内地狩獵者は近年獵犬獵獲の數を減せるより朝鮮出獵の計畫を立て準備を整へ解禁を待ちつゝある人々少なからざる趣なるを以て數ある狩獵解禁の際に至らば内外狩獵家の渡鮮し來るもの蓋しかるべく既に本月下旬に入らば視察旁々出獵の豫告を發せしものも少なからざる模樣なる由にて本年の狩獵は近年稀なる盛況を呈すべしとの豫測なりと聞けるを以て記者は今試みに鐵道沿線に於ける狩獵地の重なる場所を鐵道案内より抄録して好獵家の參考に資することゝせり

△釜山附近 洛東江の下流金海、七星島、網洛面、下東面、大上面一帶の地は雁、鴨、其他水禽の獵場として名高く陸上には雉、兎、鶉等の所在あり、洛東江の合する梁川の兩岸は雁鴨群集し通度寺街道には雉多く殊に附近の田園には時々野猪の現はるゝことも珍しからず△馬山線 進永附近一帶は白鳥、雁、鴨群を成し夜間の噂に附近人家の寢を妨ぐと△京釜線にては慶山方面は慈仁街道の清道二里の間は雉、琴湖江畔は雁、鴨、渭道の山中に野猪、鹿類の獲物多く金泉の北方約二里開寧郡に入れば此附近一帶の水田沼池に雁、鴨の群集し、秋風嶺より黄澗に至る山道には、雉子の好獵地として名あり、山村に入れば、野猪、獐の類もあり

△湖南線 江景の西北錦江の河下五里は鳥の群集する保護鳥の本邦に棲息する種類に有ると、冬期此地は雁、鴨の類多く水面を掩うて浮遊する其の陸は獵に於て雁、鴨、雉等の他に鷺類多く、山野は食用獸を以て名有り、黄登驛より八丁にして大貯水池、浮洲を現はし季に至れば池中黒白の水禽雁鴨其他白鳥等群集し金堤は萬頃平原に接近し年ある食用及狩獵鳥の外人多く井邑の東北一里の貯水池には雁鴨多く來り外人狩獵の名あり……木浦附近は三郷の干潟に雁、鴨、鶴の來集多しと

[illegible]（つゞく）

◉帶買ひ度さに

原籍大分縣南海部郡上野村生れ稱原キクノ（二〇）は去る六月三日渡鮮七月上旬大邱に來り内地人某方に作り東城町三丁目若山綿專山下村の山本妻と獪枝と幼少の頃より知合の緣故に依り同家の厄介になり居たるが持つて生れた盗癖心から帶や着物の買ひたさに七月三十日夜若山夫婦が其の留守先なる活動寫眞館に出掛けて不在中つい盗心を起し金子十八圓と衣服反物を取り收めありしも此程大邱警察署に取押へられ取調べを受け居れり

圖演藝雜記帳

『君の家はどこだね』『家つて？俺はたちばな家よ』『たちばな家は洒落てるね、みんな羽左衛門かね』『羽左衛門つて何あにね市村よ』『市村座ツてのは演藝通の根にありますわね』或る小さな宴會の席が少し崩れかけて來た時微酔機嫌の一人の藝者がうき〳〵した調子で云つた一人の客の一人はこゝまで來ると自分が笑然を食つたやうに變な顔をして相手の藝者の顔をジロ〳〵見てゐたがその時、客の中で實際馬鹿にされてゐるんぢやあないかと思つた、それでも更に言葉をついで『市村座じやない羽左衛門だよ』と言つて『ア、さう〳〵羽左衛門ですか』と受け止めた素直さうなキヨトンとした顔付をみると客は泣き出したいやうな心もちになつて默り込んでしまつた▲しかしこいつ本當に惚けてゐるなら素敵に話せるんだが―と思ひながら國は何處だと聽くと山口だと答へたので又しても啞のやうに默つてしまはねばならなくなつた▲然らいふ實例を二三日前に目撃した私は京城の藝者が一生懸命に隣や長唄の稽古を勵むのも大贊成だがッ左衛門と八左衛門の區別位は誰でも心得ておいて貰ひたいものだと思つた▲一體小唄一ツ唄へないやうな藝者が自ら無むるのは役者の噂をしたり藝者の好きさうな世間噺しなぞをするにあるのだから

渚の砂

◉家の名折れ◉ [illegible]

◉忍術本で忍術◉ [illegible]

◉一村集つて引越◉ [illegible]

神社とお寺と教會

○聖公會（南米倉町） [illegible]

○救世軍の集會 [illegible]

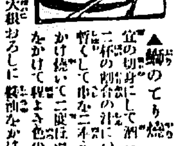
○メソヂスト教會（旭町二丁目） [illegible]

○日本組合京城基督教會（南米倉町） [illegible]

○京城日本基督教會（長谷川町） [illegible]

○曹洞宗別院（若草町） [illegible]

今日の料理



▲鰤のてり燒 [illegible]

演藝案内

京城本町 壽館 電話一〇五〇 [illegible]

櫻井町 大正館 電話八七三 [illegible]

本町五丁目 稻荷座 [illegible]

有樂館 [illegible]

黄金館 電話二三六七・三六六 [illegible]

初日八時満員御禮 大阪毎日新聞連載中 大將の娘改題 三人少尉 事實譚 特別興行 大正館

浪花館 電話二六一〇 [illegible]

京城府公文

京城府告示第拾參號
大正五年度京城府歲入出決算左ノ如シ
大正六年九月八日 京城府尹 金谷充

[illegible]

急告 [illegible] 開州 延安 [illegible]

汽車

[illegible]

左甚五郎

第二十一席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

翌朝になりまするると毎時に無い甚五郎が早く起きて井戸端へ出まして、ドン／＼水を浴び、すつかり身體を淨めて是から二階へ上りコツ／＼／＼仕事にかゝつた。偖細工にかゝりまするると、好きな酒を一滴も飲みません、それに生臭い物なぞ一切食しません、まるで人間が生れ變つたやうでございます。恰度九日目にすつかり出来上つて二階から下りて參り、甚「姐さんやつと仕事が切り上つた」女「オヤ然うかね、今日で九日目だから一日早く出来たので、是を聞いたら棟梁も嘸ぞ喜ぶだらう」甚「御神酒を一ッ上げなければなりません、三寶を一ッ貸しておくんなさい」女「あゝ宜いよ、三寶と神酒徳利を洗つて置いたよ」三寶に神酒徳利を載せ切火を打つて出来上つた鷹の前に是を備へ甚「さアもう何時誰が來たつて決して差支は無い、何か酒を一ッ飲しておくれ」と胡坐を組てグビリ／＼酒を飲で居まする。處へ歸て來た政右衛門是を見て與に喜び政「甚五郎も只た一日となつた故何うであらうかと心配であつたが、能くまア仕上げてくれた、是で俺も安心した」と政右衛門も喜んで其夜は甚五郎を與に酒を酌交はして寝てしまふ。其の翌日十日目の日限である、中川權太夫目を剛くして遣つて參り權「偖甚五郎約束の當日であるが出來いたしたか」甚「お出なさいまし、昨日出來上りました故今日持つて出やうと存じて居つた處、御足勞をかけまして恐入ります」權「それは千萬忝ない、定めし主君も御滿足に思召すであらう、ドレ一ツ拜見をいたさう」甚五郎が持つて來たのを見ますると、何だか何うも百兩の價値が無い、彫ツぱなしでございますから權「是で宜いのか」甚「へエ宜しいので」權「ハア惡く出來上つたのか」甚「左樣でございます」權「ウーム」暫く見て居りましたが、何うも此品が百兩の價値があらうとは思はれないが、甚五郎に拵させると殿樣が名指して吩咐ましたので、殊に細工をした本人が是で差支無いといふのでありますす故別に何うも仕方が無い。權「然らば早速歸つて殿へ言上をいたし、殘金五十兩は御前へ遣り届ける故左樣心得まする樣に」と權太夫右の鷹を持歸りまして殿樣の御前へ持つて出ました。權「甚五郎に命付になりました處が今日出來仕りまして納めましてございまする、御覽遊ばしまする樣に」大守の前へ差出したを越中守手に取て御覽遊ばしたが、越「コレ／＼權太夫」權「ハッ」越「是は眼が入つて居らん」權「へエー」越「早々眼を入れさせまする樣」權「畏りました」權太夫考へたが、何うも甚五郎といふ奴は中々横着者、此方の云ふことは直ぐ素直に肯かんから一層當人を此方へ呼び寄せて御前で直きに遣らした方が宜からうと思ひまして權「恐れながら申上げます、彼の甚五郎と申す者をお屋敷へ召されまして御前に於て眼を入れさせましては如何でございませう」越「成程それは宜い思ひつきである、何ういふ人物か甚五郎と申す者を見るであらう、早々當家へ呼べ」こゝで權太夫早速に政右衛門方へ參りまして權「彼の鷹には眼が入つて居らん、就てはお屋敷へ參り御前に於て眼を入れる樣にと申すことで早々お屋敷へ同道いたします樣」政右衛門これを聞いて政「あゝ成程、俺も然う思つた、何うも眼が入いつて居ねえ詞しいと思つたが、何だつて甚五郎あんなことをしたのだ」甚「なにおいらして置かねと後の金が取りにくいから故意と眼を入れずに置いた、ちよつくら行つて參りませう」政「へエー、故意と入れずに置いたのか」と政右衛門も驚きましたが、甚五郎は支度をして權太夫と打伴れて細川家を指して參りまする。

ライオン齒磨

更に寢前の一回！

皆樣を始め、私共は毎朝ライオン齒磨を使ひます。これは實に結構なことです。かく品質の最も優れたライオン齒磨を使ふのは、彼の恐るべき齲齒其他の口中病の豫防に缺くべからざる事です。ところが、今日の齒科學上から申しますと、齲齒の一番生じ易い時は夜間の睡眠中であります。何故かと申しますと、睡眠中は唾腺の活動が止んで唾液の分泌がなくなりますので、口の活動が止んで自淨作用がなくなりますのと、この二つの爲めに、黴菌は自由に口中の不潔物に繁殖して、盛んに乳酸を作り、齒の琺瑯質を分解するからです。

故に齲齒其他の口中病を豫防するには、
何うしても
朝ばかりでなく寢前にも
必ず
ライオン齒磨の使用が
最も大切なのでございます。

東京本所區外手町
ライオン齒磨本舖 小林富次郎
(823—6)

九月十日九星
舊七月廿四日乙卯
本命 六白 乾 危 赤口

[illegible]

周易 介石堂
明治町二丁目 岡村介石

產婆生徒募集
規則書要郵券
福岡產婆養成所
福岡市外水茶屋町

月やく
なきにお困りの方は郵券三錢封入左記に御照會あれ妙藥知らす
京城黃金町三丁目 山田しづゑ

ルーデサック
男用一打 四拾錢 特製六拾錢
◎有効用一個七十錢特製七十五錢 月經帶一個八十錢二圓各種
◎保證 麻病梅毒專門藥
◎麻病梅毒自宅療法
京城永樂町二丁目交番北
東京ドラッグ商會 本部

高貴藥配合
一服にてきゝめある
くだりどめ
清腸（セイチョー）
新藥
袋形オブラート添附
主治 ◎腸加答兒◎赤痢◎寢冷◎其他食傷水あたり等より起る一切の下痢症
價 十錢 二十錢 五十錢 壹圓
本舖 大阪 高橋盛大堂
◎各地藥店の賣藥店に販賣す

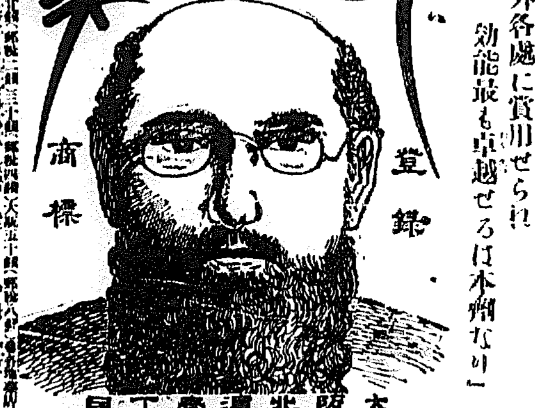
會員募集!!!
實用英語夜學會
九月十日より第二學期開始す
外人教師 出席教授す
毎週月火木曜日 午後七時半より
會場 旭町三丁目 日本メソヂスト教會構內（電話二五六五番）

純良の藥品と賣藥が揃つて居ます
クラブ化粧品代理店ですから
……御値がお安いです
京城本町二丁目角
古城贊化堂
電話一〇二番 振替七三七番

男の生殖器病
生殖器短小、包莖、陰萎、遺精、早漏、勃起不全、交接不快、快感減少、腦神經衰弱等の人は速に自宅で秘密に眞空療法を施し健全になる空前の奇効を知れよ、ハガキ照會次第博士證明の圖入説明書を無代郵送す
▲巧妙なる治療器は日本政府の新案特許品にして實驗者代の賞讃驚くが如し
▲某大官の愛用器
▲醫科大學醫學專門學校大病院御賞讃
東京神田かじ町五 電話神田七三三番
東京眞空療法研究所

陸軍御用酒
京城蓬萊町
發賣元 三巴酒造株式會社 電話長一〇六七番 振替口座六一八番
大田出張所 電話長二三五番
平壤出張所 電話長五一番
特約販賣所は鮮滿樞要の地にあり

内外科
小兒科
花柳病
京城本町三丁目（郵便局前） 電話二一六番
高井醫院
院長 高井貞治
診察自午前九時至午後九時 日曜祭日正午迄
副院長 千葉醫學士 松崎正彦

目藥 學大


「内外各處に賞用せられ効能最も卓越せるは本劑なり」

●定價金十錢（郵稅二錢）三十錢（郵稅四錢）大瓶五十錢（郵稅八錢）●各地藥房に有り
大學目藥は帝國醫科大學醫院の處方に基づき貴重の製劑にして●はやり目●爛目●トラホーム●のぼせ目●疲目其の外眼病一切に驚くべき効能あり▲十歲以下の小兒の爲めに別に小兒用大學目藥あり

大阪北濱壹丁目
參天堂藥房

京城日報
九月九日
（夕刊と合せて八頁）

第三版

釋宗演師の支那巡錫

蘇峯生

○今度圓覺寺管長宗演老漢、支那に巡錫すと云ふ。記者は此事を聞いて、端なく因果の環の如きを覺ゆる也。宗演老漢の心持如何は、予の忖度する限りにあらざるも、是れ豈に鎌倉圓覺寺が、支那に對して負ひたる債務を、六百有餘歳を經て、償却せんとするものにあらずや。

○今更ら云ふ迄もなく、宋僧祖元は弘安二年、北條時宗の招待に應じて來朝したり。其の天童山に於て、法友と別るゝや曰く、

世路艱危別故人。相看握手不知頻。今朝宿鷺亭前客。明日扶桑國裏僧。

○時恰も宋朝の亡滅に際す、世路艱危の語、豈に予を欺かん哉。

○祖元は我が歴代の來朝僧中、尤も傑出の一人たりしが如し。彼が人物の片影は、德祐年間、元兵の雁蕩を襲ふに際し、寺衆逃竄の裡、一楊兀坐、元兵の刄を以て頸に加ふれども、神色變ぜず。從容として

乾坤無地卓孤筇。喜得人空法亦空。珍重大元三尺劍。電光影裏斬春風。

○時宗が圓覺寺を創建し、彼を請じて開山たらしめたるは、弘安五年十二月にして、彼が五十七歳の時なりき。彼の衣鉢は、佛國禪師高峰顯日和尙に傳へ、再傳して夢窓國師に傳はる。夢窓に到りて、其の道天下に行はれ、大燈妙超と相ひ對峙し、殆んど一世を風靡したり。而して是皆な圓覺寺開山佛光國師、即ち無學祖元和尙の賜と、云はざるを得ず。

○惟ふに我が宗演老漢は、何を以て此の負債を、辨償せんとする乎。如何にして辨償せんとする乎。

○北條時宗と、圓覺寺開山和尙との關係は、殆んど一樣の子弟と云ふ可らず。彼等の相ひ交りたるは、弘安二年の秋より、弘安七年の夏、時宗の死に抵る迄、僅々五年に過ぎず。されど彼等は既に水乳相ひ契り、謂は師弟にして、恩は父子に勝れり。

○時宗の彼に傾倒したるは勿論、更らに應嘆す可きは、此の白鉢の鐵石心を有する祖元が、自面少壯の時宗に傾倒したるにあり。彼は一年にして、歸國す可く決定したり。されど時宗の爲めに、歸國の計を抛てり。而して時宗の一たび逝くや、彼は嗚呼哀哉、哲人云に亡ぶ、吾が法道の金湯たる者は誰歟と。此より悒々として樂まず。弘安九年の秋、其の跡を趁うて逝けり。斯くて此の高僧は、殆んど時宗と情死したりと云ふも、不可なき也。

○彼が時宗を誄するや、左の二句に於て盡くせり。

二十年握定乾坤、不見有喜慍之色。一風掃蕩蠻烟、略不有矜誇之狀。

○而して自から曰く、

老僧比公四十丁酉生、不料先我一著而去、世相暫期、空華易落。

○又た時宗の死を悼んで曰く、

故園田地已荒蕪。濁世非吾可久居。一躍欲追君便行。一念君孤寂、後入扶桑。

○予は此に於て、時宗が如何に此の高僧の爲めに、感激せられたる乎を、想像せざらんとするも能はざる也。要するに此師にして此弟ありしと云ふ可き歟。

○當時來朝僧の、常に牀上のみにて遇はる、必らずしも鎌倉ならざりしならむ。隆蘭溪は、甲州に流竄せられたり。兀庵は、禍を避けて歸國したり。されば流石の祖元の如きも、時に歸心を動かしたるは、言ふ迄もなく、其の隨行者の如きも、屢々歸國を請ふて已まざりし也。而して彼は一方には、其の門弟を斯く慰撫しつゝも、亦た自から其の歸國を請ふの時を作れり。

故國望斷碧天長。補陀大朝心已寒。迄臨太陽、一浪自悠生。

不能終始以家山。輕人因波惡浪間。要汝伴吾孤寂影、不須苦抑苦遊。

○彼は實に鐵脊に枯坐しつゝ、故郷の太白を、懷ふを禁ずる能はざりし也。故郷の法友法弟は、恒に彼を迎ふるに最も熱心たりし也。然も彼が法の爲めに、敢て殉ずる精神は、其の望郷の念をも、遂に一切截斷せしめ了れり。

爲愛扶桑水國情。烟波爲屋水爲城。十洲三島蓬萊裏。添得枯髑一老僧。

又た曰く、

爲法求人日本來。珠回玉轉委一荒草。大唐沈却孤筇影。添得扶桑一掬灰。

是れ一身支那を去りて、支那輕く、一身日本に來りて、日本重きものにあらずや。彼の祖道をも亦た、偉大ならずや。

○彼は、時宗の死に說落したるや論なし。彼の逝かんとするや、曰く、

諸佛凡夫同是幻。若求實相眼中埃。老僧舍利包天地。莫向空山撥冷灰。

○彼は死に抵る迄、獨自一己の面目を把持するを忘却せざりし也。其の自悼の作中に曰く、

頑然商豁又頭童。一息青山萬劫空。後二千年宗演來。是誰來也事孤際。

○されど六百有餘年の後、開山塔は、儼然として、瑞鹿山裡、竹翠の間に峙つ。而して彼の後繼者は、彼の傳へし道を擔ぎ去りて、更らに彼の本國に向て、之を傳へんとす。彼の靈にして知るあらば、其後あるを悅ぶ可し。記者曩は瑞鹿山中を往來し、開山塔を禮拜して、彼の高風を欽仰する年あり。偶ま宗演老漢の支那行に際し、端なく所感の一片を記し、其行を餞すと云爾。

物價騰貴と調節策（六）

輸出禁止或は制限の要

△貿易の本義　國內物價の異常なる騰貴を爲せる場合、之が調節の一策として輸出に制限を行ふ事が道理ある所以は、貿易の原則に照らせば瞭かである。抑も貿易を營む本來の目的たるや自國の福利を增進するに在る。故に自國內に有り餘りて一定量以上入用のない品を他國に賣り、自國に不足せる要用品を他國より買ふことが貿易の原則である。從て自國に不要の品を他國より買ふ、必要品の無きは勿論、自國に不足して居る品を他國に供給する事は、自國の利益を犧牲にして他國の爲めに生產する事になる。換言すれば、自國の物價を騰貴せしめて其でも、自國の利益を犧牲としてまでも輸出を敢てするは、是れ商人の私利を計るに專らにして、國家を思はざるの所業である。斯くの如き輸出に對しては國家は自存の必要上須らく之を禁止するか、若くは之に適當の制限を行はねばならぬ。現に今度の戰爭に際しては、英國或は佛國等は開戰後幾くもなくして、必要品の輸出に制限を加へ或は禁止したるのみならず、戰時中浪費を慎み節約を勵む爲め、將又正貨の濫出を防ぐ爲め、輸入諸品以外の一般消費品に對して輸入の禁止或は制限をも敢てして居る。米國に於ても亦鐵、小麥其他多種類の物資の輸出を制限禁止して居る。現に米國の鐵類輸出禁止が我日本に對して甚大の苦痛を與へて居る事が、明かに判つて居ながら、日本よりの解禁運動が中々埒のあかぬ程に米國では堅い決心の下に禁輸を斷行して居る。

△禁輸反對論　我邦に於ても近來或る物品例へば穀物、紙等の輸出を制限或は禁止すべしとの議論が唱へられて居るが之れは即ち貿易は自國の繁榮と福祉の爲めに行はるべきものであると云ふ精神を正解する論であつて、今日の應急的禁輸論に對しては吾人は一概に反對する理由を見ないのである。而して世上には既に或種の商品の禁輸を是なりとする時ならば之が實行といふ場合には實業家の間に反對論の行はるゝ事、今回政府が實施せる紙、肥料の禁輸が目前に之を說明して居る。即ち之に反對する者は曰く、輸出の超過正貨の增加は國富の增進である、故に苟くも輸出し得る物は擧げて之を輸出すべし、禁輸などとは言語道斷なりと。此の論は輸出超過を以て國富の增進なりと見たるものである、然かも出超の結果が正貨の膨脹となり、物價の騰貴を致して國民生活の基礎を動搖せしむるに至る自然の歸趨を遺れたるものである。次に販路擴張の必要を以て反對の理由とする。即ち歐洲戰爭は世界に於ける歐洲品の供給を杜絕或は減少し、日本品をして之に代る機會を與へて居る、此秋に於て吾人は奮發一番大に國產品の販路擴張を計らずして、復た何の日に好機あらむや、多少は國內の供給不足を忍んでも此際出來る丈け輸出すべしと云ふのである。物價の騰貴は永遠の利益の爲めに一時之を忍ぶも可なりと云ふのである。頗る尤もな議論に聞ゆるのである。

併し國力の充實は根本の目的であつて貿易は手段の一である。國民の生活を犧牲として、供給不足と物價騰貴とを以て販迫してまで輸出の振興を希ふは、黄金を抱いて飢を忍ぶが如く、其本末を誤れるものである。海外輸出の販路の擴張、市場の占有といふ事は誠に望ましき事である。さりながら、右の目的を有效に達する爲には、商品が國內に潤澤に生產され得べき事を條件とせねばならぬ。國內の需要に充分に應じ、而して外國に供給すべき有餘ある品でなくては販路の擴張に適當しない。さらぬだに國內に不足せる必要品を、いくら貿易の上に輸出超過の數字の殖ゆるが嬉しいとて、前後構はず輸出するといふ事こそ言語道斷で、左樣な場合には當然輸出禁止又は制限を行ふて可なりと論結すべきであらう。政府が物價調節令を出して矢張り早々に二品の禁輸令を出した事は物價調節の趣旨に適合せる正當の處置であるを信ぜねばならぬ。然かも、紙や肥料位の禁輸で目的が達せられるのであらうか。更に禁輸の品目を殖やす必要はないか。

花野、冷　─九月廿日會─

○
盛花會の日傘あちこちの花野
冷やかな朝の木に觸れ草に觸れ
虹平堂

○
花野から腰の濡帳せわしく
水道の水が冷くなる蠟燃え付き
句

○
自分のみが眞つ黑なかの花野
冷か荷造れるまゝ二三日あり
鳥

誰（61）

布施生譯

其袖を控へた次男の利介は目早に『駄目〳〵、抵抗したつて駄目です、先方は大勢です。』『うむそうだ。』老侯爵は忌々しげに舌打して、時勢は變つたな、よし此上は謀略だ。三人は忙しく額を鳩めて相談した、そして結局利介と召使の中屈强な一人とが庭から撰出した進物に跨つて候門から合圖の短銃の音を機會に門を開いて左右に逃げる、そして捕手がそれを捕へやうと追かけて邸の周圍が手薄になつたのを見濟まして、數敏は後面の塀を乘越えて反對の方向に落延びるといふ事に手筈が極つた。利介と召使の男二とは時を移さず身拵へして庭へ飛下りると侯爵は二階の窓に片足懸けて合圖の短銃を構へながら今か今かと機會を待つた。此計略が巧くゆくかゆかぬかは數敏に取つて生死の境である、彼も擦目なく用意を調へて自分の番が來るのを待構へる筈だのに思へば香氣な話である、彼は何時の間にか二階に上つた

かつた、數敏も斷念で庭へひらりと飛下りると其まゝ裏庭の塀を乘越ねやうとしたが、失敗つた、それはもう遲かつた、自分が今迄暇取つたので利介が豫期より早く失敗つた爲に捕手はもう邸の背後を固めてしまつた、數敏は仕方なくセーヌ河に臨んだ塀を乘越ねた、下には灘木の生茂つた崖があつて其先から正門の方へかけては栗の密林が奧深く茂つてゐる、こんな中へ馬を乘入れる事は思ひも寄らない、追手も矢張り歩行立になるであらう、固より地理は知つた事なり數敏は此中を彼方拔け此方拔けして追手の眼を眩まし其先にある空濠を越ねて逃延びやうと思つた、うまく追手の眼を掠めて濠端までは忍びついたが見るとセーヌ河の潮時と見ねてセーヌ河の水が凄じく漲ねてとても渡る處の騷ではない、躊躇する間に對岸にはもう追手の影が見ねた

失望したがしかし氣は落さなかつた、數敏は咄嗟の間に思案をきめて濠端を斜に河縁に出た、そして二三間岸河に沿ふて走ると見るまに逆浪立つて渦卷き流れるセーヌ河の深みを指して飛込んだ。

雜誌抄

◆牛津留學費（新東洋）英國オツクスフオド大學に在學せんとするには一學年間の食費、寄宿料、月謝を合せて最低四百圓乃至六百圓を要すべし、今之を一學年三學期として計上すれば約千五百圓を要すべく、衣服費其他の雜費の加はることをも思はざる可らず

菱印
窓硝子
三等品　舶來品ニ比シ一層優良ニテ御專用ハ此品ニ限リマス
四等品　通常舶來ト稱ヘ普通ノ用途ニハ至極適當ノ品デアリマス
本社　旭硝子株式會社
工場　第一工場 尼崎　第三工場 鶴見　煉瓦工場 尼崎　第二工場 戸畑　第四工場 枝光　曹達工場 戸畑

東京武神羅紗店
新設……福岡支店
取引區域＝朝鮮…九州全部及山口縣＝
謹啓　弊店儀特別の蒙御引立御陰にて年々著しく御取引數增加し來り業務の進步は自然當方面に支店增設格別に御取引の密接と御便利を圖る事の急務なるを知り今般下記の場所へ支店を新設仕り從來大阪支店より御取引の全部を當福岡支店に於て引受一層營業の擴張を計り度就ては今般店員一同一生懸命の奮勵仕り凡てに勉强可仕候間何卒更に以上の御愛顧を賜はり度奉希候
今秋の冬見本若干配付の餘力あり
御入用は＝急ぎ＝御申込あれ
東京　羅紗商　武神福岡支店
福岡市博多中間町　電話一四四九・一九七〇・〇〇六

◉一等割增金貳千圓附、最初五箇年は年三回抽籤
◉初回くじびきは本年十二月（割增金總當り）
◎第六十六回勸業債券（四分利 拾圓券）賣出
◉來る九月十五日より三十日まで
◉日本勸業銀行及各地代理店、取扱店並に郵便局にて

大擴張　支部長募集
月收百圓以上確實有望書籍數種の文明的販賣法外に懸賞的獎勵法あり詳細規則三錢封入照會
東京市下谷區西町三
（資本金壹百萬圓）

會員募集（二百名限）
現代美文家 吉田島山先生著
新体美文 手紙文庫
四季折々の時候文時にふれ折にふれての感想文或は泣かしめ或は笑はしめ或は恍惚たらしむる嬋妍の筆艶麗悲痛の美文集にして文例豐富日用自在也
春の卷　夏の卷　秋の卷　冬の卷
東京芝宗廟前　手紙文庫刊行會

冬服地均一賣出し
九月八日より店頭陳列
表地一着分　十五圓、十八圓　二十圓、二十三圓、二十五圓其他
京城南大門通　丁子屋洋服店　電話 六二・九二一・九〇〇番

大阪期米相場
後場當限寄付二十四圓九十一錢▲中限寄付九十錢▲先限寄付二十四圓九十錢

下關期米特電

正米
一圓二十九錢…節二十一圓〇一錢五釐…若くは三十五錢…二錢方押し…强調…

八日の十一月限
寄付 十七圓二十三錢
引メ 十七圓三十四錢

◎獨逸講和計畫

リガの戰捷を機會として

獨逸はリガ方面の戰捷を機會に露國と單獨講和をなし東部方面の兵力を西部戰線に集めて講和上の利益を計らんとしつゝあり（桑港電報）

◎對羅馬法王回答凝議

「パン」來電に據れば墺國外相「チエルニン」伯は白國及び獨國の全權特使たる資格にて五日來維納に於て獨逸「ヴオン・キユールマン」外相と會見し羅馬法王への回答に就きて凝議中なり（桑港電報）

◎莫斯科遷都內定

六日露國臨時閣議の結果獨軍リガ占領後其の攻擊猛烈となれるに鑑み首都を莫斯科へ遷すべく內定し諸般の準備に就き莫斯科當局へ宛て打電したり（莫都電報）

◎協商側加入反對具申

支那督軍は督軍聯合會議を開き其の結果支那政府の戰團協商側加入に反對の意見を纏め之を政府に具申することゝせり（奉天特電）

◎英國潛航艇戰方策

英國海軍當局者は潛航艇戰に關し語りて曰く吾人は獨逸が潛航艇戰に全力を傾注しつゝあるを記憶せざるべからず同時に潛航戰が更に猛烈ならむとする兆あるも驚くに足らざる覺悟を有せざるべからず今や獨逸は巡洋艦型にして更に大型の潛航艇を建造しつゝあるの形跡あり然れども獨逸は其豫期せる期限內に成功を收め得るの望みを有せず而して吾人は日米兩國の偉大なる援助の下に獨逸潛航艇と對戰しつゝあり尚對敵潛航艇擊滅の手段に關しては今明細なる說明を爲し能はざるも唯今說き之れが手段を講じつゝあれば船舶の損失は近き將來に於て絕滅し得らるべきものと信ず（倫敦電報）

◎觀瀾亭雜俎

蘇峰生

○若し桑門にして、帝王の歸信を博したる第一人を求めば、前に空海あり、後に夢窓ありと云ふも可也。而して夢窓の善巧にして、諧謔に堪能に、且つ其人に適用せられ、門弟に愛慕せられ、民衆に歸向せらるゝ、亦た空海の亞流と云ふも妨げず。

○夢窓は實に北條、足利の亡興期に於て、南北兩朝の交鬪期に於て、一代の木鐸たりし高僧なり。當時洛北大德寺には、眼空一世の大燈妙超あり、叉た江湖には、入元の禪僧、恬淡博約の元光寂室あり然も所謂る七朝國師として、上下道俗の隨喜、渴仰を、一身に集めたる彼が如きは、未だ是れあらざりし也。

○彼は教學を經て、唯心宗に轉せり。○彼は顯密の教理に於て、已に習熟し、而して後未だ大事の究明するに足らざるを見て、禪に歸せり。是れ實に彼が二十歲の時也。

○爾來彼が七十七歲、嵯峨天龍寺に於て遷化する迄、彼の生涯は、一面世を避けて、山中に逃れ、一面世より追られて、山中を出で、殆ど迷藏の戲を演じたるものに類せり。乃ち甲州の惠林寺、濃州の虎溪、鎌倉の瑞泉寺、三浦の泊船庵、上總の退耕庵、伊勢の善應寺、土佐の吸江庵等の如き、何れも彼が人間より脫却せんと、試みたる際跡也。然も彼が隱遁の志切なるに倍し、世の彼に求むる愈よ殷に。嚴促、懇款を本領としたる彼は、一身の金襴の袈裟を著け、上は當上、武將の寵奧より、下は三萬の緇素に擁せられて、非常に結構なる大龍大伽藍の裡に逝けり。是れ彼の生涯の序幕也。彼にして始終せりと云ふも可也。されど矛盾は、却て彼の特色なりと云ふも亦可也。空海が高野の山中に退藏し、猶ほ帝王の歸伏を博し、一代衆望の中心となりたる得意の境遇に比して、未だ多く讓る所を見ざる也。

○彼へ云ふ彼は非常の美僧なり。其の宮中より還るや、彼の內部は、宮嬪の贊嘆を以て滿溢せられたりと。されど彼が戒律、堅固の僧たりしや、一點の疑を容れず。然も其の一動一默一語、他を吸引する魔力を有したりしや、復た疑を容れず。彼や實に雅戰虎鬪の際に處して、明哲保身の要を得たり。

世途今古幾窮通。萬古千載歸一空。傀儡棚頭論彼我。蝸牛角上鬪英雄。須知蟭螟相持處。終被閑人收拾中。放馬華山待何日。不如頓歇業城東。

是れ恐らくは彼の本音ならむ。彼は中心より當時の騷亂を厭へり。されど彼の法力を以てするも、之を奈何ともする能はざりし也。

○彼が中年修業の際、屢ば眼前に魔隱の橫行を見たる記事あり。予は之を一讀して、路傍が障魔を退治す可く、室內を驅け廻りたる事を想起するを、禁ずる能はず。以て兩者の修業の熱誠、切實なりしを知る可し。

◎佛國內閣危機去る

佛國政府は第川內相の更迭を行ひ今次又社會黨員中より三名を入閣せしむることに決定せるが右は社會黨從來の意見を認めたるものにて佛國內閣の危機は之れに依りて去りたるものと認むべし（倫敦電報）

◎露禁輸除外例

浦鹽歸着談

八日朝浦鹽より入港せる牛安丸の歸客談に曰く、九月十四日より實施の露國一般の禁輸令に對する浦鹽除外例は七日露國政府より浦鹽稅關に電命あり浦鹽經由の黑龍沿海州に使用する物資に限り浦鹽港務會議によりて從前通り輸入差支へなしと定めた浦鹽勞働者の歸國者多しと（浦鹽特電）

◎宮本中將逝去

退役陸軍中將正四位勳二等功三級宮本照明氏は愛媛縣新居郡九重村の自邸にて七日逝去したり（東京特電）

◎郵便切手代用

銀貨補助貨幣缺乏の爲め奉天新市街にては郵便切手を代用するものあり（奉天特電）

〔附記〕宮本中將は安政…明治十八年…大正元年…豫備役…

◎釋宗演師出發

釋宗演師は大野宗津師、高千穗四位三條隆基氏と同伴し支那各地漫遊の爲め八日午前八時五十分大邱驛發列車にて下關に向ひたるが一行は途中朝鮮通過、釜山、京城、平壤に巡錫の後滿洲より支那に入り十一月末歸朝の豫定なりと（東京特電）

◎七年度總豫算案確定

＝總額は六年度と大差なし＝

＝主なる新規計畫事業＝

大正七年度朝鮮總督府歲入歲出總豫算案は檢査部局の査定案を經て上會同總督の決裁を經たるを以て急遽中央政府に提出し併せて其の說明並に交涉を開始す可く河內山會計課長之を携帶九日夜南大門驛發列車にて東上す蓋し同豫算の內容は目下の所祕密に屬し居れることとて其の內容は不明なるも總額に於ては大體に於て大差なく叉た新規計畫事業としては鐵道事業の擴張、朝鮮總督府施設の建造等事業の主なるものゝ如し

◎商品擔保貸出

七月末現在に依る商品擔保の銀行貸出高は第一銀行、朝鮮銀行に在りて、は倉庫業者の保管に係るもの百五十三萬七千三百二十三圓現物保管百五十九萬五千六百八圓合計四百七十萬二千九百三十一圓にして之を前月と比較するに粟、雜穀、鑛產物、其他は若干の增加を見たるも其他は何れも減少したる結果合計に於て三十二萬三千四圓を減退せり第二輸移入品に對する貸出額は倉庫業者の保管に係るもの六十五萬三千百圓現物保管百六十三萬九千四百六十一圓合計二百二十九萬二千五百六十一圓にして之を前月に對比するに砂糖、麥、木材等に在りては若干の減少を見たるも其の他は何れも增加を示せるを以て結果合計に於て五十五萬五千六十六圓の增進を見せり而して同月の貸出額を保管別に示せば倉庫業者の保管に依るもの二百十九萬四千二百三十三圓現物保管に依るもの四百八十三萬五千六十九圓にして總計七百二萬九千四百九十二圓を算し前月に比すれば前者は十七萬三千七百卅四圓後者は五萬六千八百八圓合計廿三萬五百三十二圓の增加なりとす因に同月の擔保貸出總額に對する前記商品擔保貸出の割合は五分四厘なりとす

◎京畿火田現況

最近當局調査に由る京畿道管內火田總面積は七千四百八十町四反四畝あり內國有地一千四百卅七町民有地六千四十三町三反五畝步を算せりと

◎鮮鐵營業成績

八月中京城管理局營業成績は旅客四十九萬九千四百十六人賃金四十七萬五百七十三圓貨物十七萬二百九十三噸此の賃金四十八萬九千九百十七圓合計九十六萬四百九十圓なるが之を前年同期に比すれば二十八萬八百五圓の增加なり尚一日一哩平均二十九圓六錢にして前年同期より七圓二十八錢を增加せり

◎工業地たる平壤（中）

別府特派員

□三大新事業の概觀□

既に平壤に興り叉將に着手せられんとする新事業の概略を記述したが、茲には其の主要事業の概觀を記述し、平壤市況に及ぼす影響を觀察して見やう

□甜菜糖製造會社の前途

本社の工場は近く新築に着手し、明年より鮮人に甜菜の栽培をやらせやうとする本會社の經營は少くとも三年間試驗時代にして樂觀を許されない。唯世界に於ける甜菜糖の六割は甜菜糖で、又平壤附近地方の土質は多年技術者に於て實地研究の結果

□甜菜の栽培に最適當である

と云ふ斷案を得てゐるから、之れを世界的に又理論的に觀れば悲觀の必要なきも、併し實際問題とすれば栽培普及を圖る上の困難あり、甜菜を作つた方が大豆を栽培するより有利であるかの疑はしい點あり、手入れの行届いた小面積の成功が大面積にも同じ理屈で推擴して行ける乎、因に鮮人の對應策等色々な困難があるやうだ、それらの障碍は諸事可能なりと云ふ會社當事者の所見に信じるとし、唯差し向き一萬町步以上にも及ばさせやうとする栽培面積を如何にして普及せしむるか。これは獨り當局官憲の

□積極的援助

に賴る外はあるまい、然らば如何なる程度迄當局の援助を受け得らるゝかと云ふに、之れは會社に對する國庫補助額の如何によつて定まる問題かと思はるゝ、其の補助額は未だ明年の豫算公表なき今日の所全く知り難いから何とも云へぬけれど、要するに該事業は朝鮮內の需要を充たす砂糖を製出し、進んで支那にも輸出して行かうとする程重要な叉新奇の生產事業だから當局も及ぶだけの好意は表するらしい、更に會社は臺灣の粗糖を移入し平壤で精糖とする計劃も併せて出來てゐる、而して

□會社の收支決算

の上に一應の成績を發表するに於ては少なくも當分の間甜菜よりも臺灣粗糖の精製にありはせぬかと平壤有力筋は觀測してゐるやうだ、叉會社の幹部は內地の錚々たる連中だから會社の前途に兎角の言を挾む必要は素よりあるまい、尙ほ會社は五百萬圓の資本金で第一回は百八十萬圓の拂ひ込みとし、機械は名古屋から購入するやうだ、要するに會社が事業を開始するに至つたら其の製糖並に販賣により直間接に平壤の潤ふ所は少なくあるまい、又地方では甜菜の栽培良好に行く事とならば農家の懷ろ合ひをよくし其が聯て平壤市況の繁榮を助くるに至るであらう

□平壤兵器製造所

東京砲兵工廠の平壤兵器製造所は陸軍の施設で民間の企業ではない、然し平壤新事業中の主なる一つである、三箇年の繼續事業として四百萬圓の豫算を費すので差し向き工事を初むれば

□二千人以上

の人夫を使役すると云ふ、從つて其の工事賃金の平壤の撒布も莫大なものであらう、幾千の人夫が何處から來るか尚ほ未だ知り難いし、之を使役する製造所の主要材料たる鐵は、平壤で購入し能はぬものだから、其の設置が何程平壤の市況を賑はすかは觀じ難いけれど、要するに平壤で集まる材料は平壤で購入するやうになるし、叉平壤はして貰ふだらう、更に工場には五六百位の內鮮人は働くと見て大過ないやうだから素より其設置は平壤の一大福音である殊に

□平壤は師團

を龍山にとられて昨年來始らく意氣銷沈の體であつた、それに叉兵器製造所を他地に持つて行かれでもしたものなら、其失望は實に輕くあるまい、乃ち兵器製造所の新設は物質的には勿論精神的にも平壤人士に與へた好影響は大したものである（以下三大新事業の一たる有望のセメント工場及製鐵に讓る）

◎黑板博士動靜

東京帝大文科助教授文學博士黑板勝美氏は慶北高靈郡に於ける伽耶國古蹟の調査を終り六日夜來邱し一泊の上翌七日午前六時四十分發列車にて更に慶南金海郡に於ける駕洛國古蹟調査の爲め同地に向へり六日は慶北敎育會の講演に依り大邱公立小學校內にて講演會を開催する筈なりしも途中洛東江增水の爲め來邱時刻遲延したるより中止となりたるが來る十四日再び來邱同日午後四時より大邱上町在鄉軍人集會所內に於て講演會を開催すべしと（大邱）

▲金海へ來着 來鮮中の文學博士黑板勝美氏は慶尚南道金海に於ける古蹟調査の爲め七日午後同地に來着せり（釜山）

◎安達公使着釜期

新任白耳義駐剳公使安達峰一郎氏は八日東京出發赴任の途十日朝入港關釜連絡船にて釜山上陸同日午前十時卅分發列車にて京城を經て任地に向ふ筈（釜山）

◎國分長官馬山着

國分司法部長官は八日馬山に來着（馬山特電）

◎秋山滿鐵課長東上

秋山滿鐵用度課長は鐵道用品購入其の他の要務を帶びて去る五日大連を出發し七日夜南大門驛着入京し八日京城管理局を訪問し橫井局長、三本、加藤、鶴尾各課長と會同し諸般の打合せを了し九日午前八時三十分南大門驛發にて東上する筈なるが東京に於て滿澤理事長と打合せ用務を終へ多分同道歸任のことゝなるべしと

人事消息

▲阿部竹五兵衛氏（大倉組東京本店副員）千葉良氏（同）八日夜入京天眞樓へ

▲河合信太郎氏（大阪貿易商）同上

■百聞百種■

ルーブルが何とか下とか云ふが兎に角露都の物價の高い事は聞くだけでも目玉が飛び出し相な▲水蜜桃一個が五十錢、夏服一着が百三十圓、靴一足四十圓だと他は推して知るべし▲大木伯の成金論に曰く▲大倉や久原は元來が在るのだから先づ飛車や角の成金ツ▲近頃の船成金などは所謂成り金で歩が成金になつたのだと▲其の飛車成金の大倉鶴彥男の步成金に對する一言▲一成金の諸氏も人柄つくろうな秋の初風たち居振舞は何うでげせう▲船成金と云へば過般大阪の船成金某が哈爾賓へ行つて船を賣る相談したとか評判になつた▲之れは不思議だ處もあらうに哈爾賓とは妙だツイと聞て見ると▲賣ると買よとの大違ひで松花江航行の汽船與船とを引つくるめて露人から買ひ取らうと云ふので▲百八十噸十八萬圓の約束が出來た相な滿洲の山奧迄船を探しに行くなんて金儲をする者の着眼は又た格別だ▲高橋是清男は近く書畫骨董の賣拂をやる相な▲今度の分は所藏の一部で豫定價格は二百五十萬圓▲賣て財政整理ではなく天下の珍品を私藏しても▲娛む暇がないのと手入れの面倒なのが賣拂の動機だと▲男の方より買ひ拂はるゝ書畫骨董の方が嬉しからう▲とは又た口が惡い

▲本浦… ▲虎疫視察 藤田警務…は五日より管內…の管にて…巡視を…の上五日…に向ひ更に…順次視察をなす…

▲…成績 八月中木浦驛の…十九萬…十四萬…計一萬一千四百五十二圓にして…

九月一日發行 改正定價一冊十五錢

大商業の時代來る 法學博士 神田和民

有爲の青年よ奮って南洋に來れ 井田工學士

獨逸恐るゝに足らず 東大教授 朝永…

現代產業組織の特徵及び缺陷

鐵鋼需要の大勢 …

製鐵事業勃興の機運

若尾銀行に入れる井上辰九郎氏

（名士回答）此夏を何に暮せしか

紛擾衝突原因 …

破產以來十五年の大奮闘に回復經歷

新飲料

能力增進法

世はさまぐ（賃金の波）

思想の現はし方

半年分郵稅共二圓二十五錢 東京京橋 實業之日本社

宮崎式滿洲瓦發賣廣告

製品の特色

宮崎式滿洲瓦は近世式屋根瓦にして我社が苦心考案を加へ今や完全の品を製出するに至れり其質は堅牢にして耐久能く寒暑に堪へ重量輕く聊かの漏水なく且つ色彩の加工自由なれば和洋建物に適し殊に洋風建物に至つては配合よく外觀頗る美にして如何なる極寒中と雖も施工する事を得實に理想的屋根材料として到る處に歡迎せらる

色彩 青色 鼠色 錆色 鐵色

價格は從來の日本瓦に比し頗る低廉なり（一坪に付き四十八枚這ひ）

使用せし重なる建築物

安東縣 稅關

平壤 中村組

鎭南浦 三菱製鐵所

平壤 小野田セメント會社支所

鎭南浦 久原製錬所

滿洲、青島、上海等到る處使用せらる

鎭南浦江通十三番地 宮崎製瓦所分工場

西鮮特約店 平壤 中村組

雅樂の音 今日を壽ぎて
盛大なりし李太王御誕辰内祝宴

德壽宮の李太王殿下には本月の八日は恰も第六十六回の御誕辰當日とていと盛大なる内祝宴を催されたり此日殿下には午前十時といふに咸寧殿に成られ同殿にて御對顔あり昌德宮李王殿下並に妃殿下と共に[illegible]に入りては惇德殿に活動寫眞の餘興あり、夜九時宴を撤せられたるが李王殿下並びに李王妃殿下とも同車御馬車にて昌德宮に御歸還ありたり、猶ほ李王職判任官以上の職員には別に李太王殿下より酒饌を賜はりたり

◆朝鮮の古式による

饗饌の禮を行はれたり折から古典的なる雅樂の音と共に四十の皿に盛られたる「饌床」の饌は黄白色とりどりに眼も綾に今日の悦びを壽ぎたが、かくて正午十二時ともなれば李太王殿下には廣大なる石造殿の洋室に成られ茲にて李堈公殿下を始め宗族朝鮮貴族、閔長官以下李王職高等官等の祝賀を受けられける式を終りて後は更に午後[illegible]時半より惇德殿に於ける

◆午餐會が催され

たり、晩餐の宴は昌德宮より運ばれたる山海の珍味に卓上の盛花植物の色香とりどりなるもめでたく席につらなれる人々は内祝宴なれど百卅五名の多きを數へぬ、更らに午後三時よりは李王妃殿下の御催しにて宗族朝鮮貴族及び李王職高等官の各夫人に對し麗しき午餐の御宴あり[illegible]

◆石造殿の其處此處

には空色の裳、白絹の袖、げに時ならぬ美しさを増しけり、かくて夜

◆李太王誕辰＝（上）宗族の參賀（下）昌德宮より齎らるゝ膳部の搬入

新聞紙を白紙で賣たが利益

洋紙騰貴に伴ふ商況の異變は地方新聞中一割五分乃至二割の購讀料金及び廣告料金の値上をなしたる新聞紙多く又の新聞紙は紙面削減に多額の費用を投ずるより白紙にて販賣する方利益ありとの奇現象を呈するに至れり（大阪電報）

腐土の發火

間島西道溝に於ける 間島は龍井より約三里半頭道溝より一里なる四道溝の沼澤地帶に奇異なる現象を生じ附近の土人は噴火の前兆にあらずやと騷ぎ出した、其面積は約一晌地範圍にて地盤より白煙を吐き附近は熾々として熱氣人に迫り裸足では到底接近することが出來ぬ、されど其中心部より離れた所には野花今をさかりと咲き亂れ地盤の變化とは何等の交渉を有せぬといふ有樣であるそして其中心部分には灰が堆積されてゐるので好奇心に驅られる連中はビールの空瓶を携へ其灰を採取し持ち歸るものがある學説上では之れを腐土の發火とでもいふのであらうといふ即ち數千年來の草生地に於て地下の草根は次第に腐り地盤は死んで腐土體となるのであるが自然の作用によりて乾燥部分より發火しそれが延燒するのであるさうだ（間島）

光瑞師曰く予は海外に在りて農業に從事せん

＝予の日本に於ける佛教改革は行はれさうもない＝

佐賀縣小城郡牛津町の某氏は今回南洋視察を終へ歸途新嘉坡より上海まで郵船北野丸に便乘其の間大谷光瑞師と同船し氏は八日郵船熊野丸にて門司へ歸來せるが船中大谷光瑞師の談として語る所に據れば「現今の内地佛教は僧侶が信徒より金品を貰ひ受けて初めて教化する狀態にあり斯くの如き有樣にて如何でか宗教の本旨を完ふし得べき予は是に對して大改革を加へんと欲するも現今日本の狀態にては到底其の目的を達することは能はずされば予は海外に在りて農業に從事し絶對に再び國に歸らざる決心なり」と語れり師は上海より大連に赴く筈なるが便船を待つ間杭州に赴きたり（門司特電）

近く落飾す可き支那巡錫の釋宗演老師（右）と老師の筆蹟（左）

死傷者二十餘名に達す

●文川郡品評會●椿事●詳報●

既報の如く咸南文川郡品評會閉會の當夜即ち九月一日午後八時頃突然

▲石油罐爆發し死傷者廿餘名に達したるが之が詳報を記さんに同夜は品評會の閉會と共に引續き餘興に移りたれば附近の村落より蝟集し來れる觀客は無慮千數百名にも達し午後八時餘興係りの舞人某は舞台の先に布片を捲きたるものにて之れに石油を注ぎ火を點し燈火の代用と爲し、ゐたりしが其の滴りが過つて前方に置きある石油約八升餘入りの罐に落下せしより罐は俄然大音響と共に爆發し

▲其の慘狀は實に目も當られず斯くと急報に接したる同地憲兵分遣所及び郡廳にては應急の手當を爲し同時に觀衆中の重傷者は最寄の家屋に收容したるに其數廿餘名に及び内重傷者の三名は翌朝に至り死亡せるが越えて三日には更らに三名の死亡者を出したりと之が原因は前記の如くなるが過失責任者に就き目下取調べ中なりと

我子を生埋め

全北淳昌郡福興面北基里金姓女（三八）は去月二十七日午後三時頃長男洪錫（三）を背負ひ同郡八德面瑞興里の山中に分け入り子供を下して面部に繃帶を纏ひ地下幾尺を掘り下げたる穴の中へ投げ込み上より土をかぶせて生埋とし尚其上に一個餘りの石を置き其場を外し何處ともなく立ち去りたるを草刈の者が發見し早速石を取り除け掘り返したるに果して虫の息となれる子供が現はれしより直ちに子供を抱へて其里長に訴へ出でたる結果金姓女の所爲と判明し其筋に力して捜査の末翌日逮捕せるが生活難の爲め殺害を謀りしものと分り洪錫は幸くも生命を取り止めたり

馬賊邦人を襲ふ

射擊して現金を奪ふ

十日午後七時本溪湖新市街柳木與居に三名の馬賊闖入し居合せたる邦人を射擊して傷を負はせ五十一圓餘を奪ひて逃亡せり（奉天特電）

釋王寺山に水力電氣計畫

釋王寺は將來の別荘地として朝鮮貴族並に京城、元山の紳士間に別荘建築の計畫あり現に閔李王職長官及び[illegible]此地に避暑し居るが當時滯在中の[illegible]は同寺山の溪流を利用して水力電氣を起さんと企畫せるものゝ如く元山水力電氣會社主任技師等に依囑して目下鐵道側の技手と共に測量しつゝあり其目的は餘り大規模ならずして釋王寺附近竝に釋王寺及び溫泉附近に點燈を爲さしめんとするにありて豫算は約十萬圓以下の見積りなりと（元山）

油斷のならぬ二人組の鮮人

京城鍾路一丁目洞居住自稱鑛山業[illegible]（三八）は鍾路二丁目旅館業[illegible]（三一）と共謀し[illegible]は江原道通川郡鶴二面孫邑里の金塊何某と稱して數十萬圓の資産家の實子なりと稱し田舍者らしき風采に假裝せしめ資家の戶主を相手取り家産十五萬圓の分配方を請求する訴訟事件の爲め京城に來れるも所持金を悉く使ひ果したるより勝訴の上は數千圓を返禮するにつき訴訟費用として金百圓を貸し與れと詐稱して京城旭町二丁目居住の内地人某鑛業家を騙し[illegible]

赤輪を觀る

[illegible]

不良少年

秋田市土手長町生れ京城永樂町一丁目居住石井平四郎（一九）は[illegible]

群山の豪雨

[illegible]

鍾路署の射擊會

[illegible]

金牌 男女頭髮用 本椿ポマード 本椿香油 本舖 大阪西横堀 三宅堂

寫眞銅版 亞鉛版 出張撮影 京城日報社寫眞製版部

公告 京城府備付地籍圖ハ本月拾壹日ヨリ約二週間[illegible]施行ノ爲メ閲覽相成難ク候ニ付此旨公告ス 大正六年九月六日 京城府

最新刊 宗演禪話 定價九十錢 無代進呈 大阪屋號書店

新學期 生徒募集 裁縫科 各科

京日案内

恩給年金立替 國江商會
田中自働車
恩給即時 山口屋
新金庫 室商店
鑛物定量分析 坂元分析所
新古ミシン賣買 楠商店
電力モーター 中根商會
紙函職工入用 鼎商會
寫眞見習生男女至急入用 獨立軒寫眞館

買鑛開始 今般當所製鐵原料として磁鐵鑛及赤鐵鑛の買入れを開始致候間壹ヶ年六百噸以上の豫約御希望の方は見本御送附の上産地等御申越相成候はゞ詳細御打合可致候 黄海道兼二浦 三菱兼二浦製鐵所

元金損なし年三割利廻り 月々配當 大金利 建物興産合資會社

英國倫敦イーラスミツキ會社製造 化粧品新荷到著 石鹼＝ピヤレス エジプト タキシバス テスコ コールドクリーム 外二十五種 薬用石鹼＝カルボレーキ ホワイトロース ツランスペーレント 香水＝イーラスミツキ ランジヤン ランカスタ ヒメリヤブゲー 外十種 結晶香水＝クリストル 香油 白粉 各數種 英國イーラスミツキ會社代理店 朝鮮滿洲總卸元 大連市伊勢町四十八番地 田中洋行 特約店又は小賣店は各地到る處に在り

榮養ヲ增進シ精力ヲ旺盛ニス グリコナール錠 東京室町 三共株式會社

内科 外科 花柳病 產婦人科 京城南大門驛前 南大門醫院

謹告 祖先の靈を佛壇にまつり朝夕赤心を捧げて之に仕ふるは日本國民特有の美點です、弊店は之に要する一切の佛壇佛具類を京都の本店に於いて謹製し以て御需用に應ずる朝鮮唯一の佛具商であり升 各宗寺院御用達 京城本町二丁目花月前 小倉佛具店

氣象概況

暴風警報

櫻御殿

第十回　大阪　霞の家主人

戀爭ひ（一）

清之亟が首尾好く正則の使命を果して、清洲へ歸つたのは、八月五日の日暮であつた、城の留守居稲葉丹波へ『松尾清之亟只今歸着』の旨を届け置いて、直に一番丁の屋敷に入る、清之亟には一人の母があつた、名を銀杏といふ、

『お母さま、只今』

取る物も取り敢ず母の前へ出る、母は我子の爲めに夜衣を縫て居た、

『早やお歸りか、お先觸も無く何どしたことぢや、而てお上は？』

『まだ二三日後でございませう、わたしは秘密の御用を承はつて、先發致したのでござります』

『何れにしてもお上御用に立てば重疊ぢや、内府樣も上方へ御發向と申すことぢやの』

『治部少輔謀叛でござります、上方は一面の修羅場でござります』

『太閤樣お薨れになるとすぐ此やうな事で無いか』

『何事も時でございます、然し大阪のお城には、秀頼樣おはします、假し、治部少輔は滅びましても、若君樣は御安泰であらうと察します』

『さう無うてならうか、内府樣も、侍從樣も、皆な太閤樣の御家來ぢや』

『夫についても是非ないは岐阜の黄門（織田中納言秀信）樣ぢやわの、專らの噂で聞くと、上方へお味方を爲されたさうぢや』

秀信は織田信長の嫡孫で、信忠の忘形見、大徳寺の燒香では柴田勝家と秀吉との爭論の中心になつた三法師である、今は成長して岐阜稲葉山の城の主となつて居る、名門の嫡孫であるので、從三位中納言に叙せられて、祖父信長には縁故の深い岐阜の城を維持して居る（岐阜の地名は織田信長が命じた事で、それまでは井口と云つて居た）先代に比べては月と星とほどの相違であるが、これでも木造左衛門、百々越前守などいふ名將が付いて居て、一方に雄を稱して居た、家康も早くそれに目を付けて、味方に取り入れようとしたが、その時はもう三成の藥籠中へ納められて居た

『さうでござりまする氣、織田樣の御後も、これで斷絶の憂目を見るやうなことにならねば可いと思ひます』

『眞に／＼、武士の運命ほど計られぬものはござらぬの』

母が滲々云ふ時、玄關の方で『道齋お見舞ひ』の聲がした、茶道の道齋と清之亟とは幼少からの友である

『道齋が參つたやうぢや、例も揚らず情のある者でござります』

清之亟は懷しい聲で云つた、案内につれて道齋が入つて來る

『やはり貴實、わしは僞であらうと思ふた、お小供にしても、ちと早過ぎは致さぬかの』と道齋はまず訊ねる

『これには仔細がある、追て分る時があらうぞ』

『何か秘密の御用ぢやな』

『そこはお主の推量に任せて置く、乃公の口は當座啞子ぢや』

母は二人の緣話を妨げまじと思ふらしく、茶を煎れに次へ立つた、道齋はその後を見送つて

『これ、仇に思ふな、初瀬御寮の志な……悲い深切ぢや』

清之亟は聞こえぬ風をして横を向いた

『いわさ、初瀬御寮がさ、貴樣が無事に歸つたのを聞いて、第一に歎ばれたは母御前、それに敗けぬ程の諸悦を見せるのは、初瀬御寮であらうぞ、關東の土産あらば、何にても届け參らす、遠慮無く渡し召さ』

『そこ處か、天下の大亂ぢや、お主まだ上方の模樣聞かぬと見ゆる』

『いや聞いた、伏見の城は落ち、鳥居彦右殿討死、石田殿軍勢が、もう徐々美濃路へ入つて來たさうぢや』

戰爭談はそれから始まる

京城府明治町二ノ三二（元貸業管社跡）
花柳病　皮膚病　須古醫院　電話二一〇二番

□一日一句

雨が強くなつて山植唄がはうほふ　黄丘
掃すゝ町行く夕或家に蚊遣せる　瀬村

□公州山城吟社句録　＝八月十八日不隣居＝

頻折れて下ろす礎石や霞晴れぬ　末刀
霞擲れて脳腸鳴らす猛虎哉　同
湖地終へて竹尺み捲く夏野哉　同
常柱の夏野を直ぐに町に入る　同
暗低の前かまさく\／と蜘蛛道へり　同
蜘蛛方に巣を營むや宵の月　同
苔の花に地を這ひ飛ぶ微虫哉　同
綠透いて濁日洩れあり苔の花　宝堂
尚車に雅馬積み行くや夏の原　同
蜘蛛の巣に鐵背高し大槻原　同
開ざせる汽期の窓や雹打ちぬ　可舟
飯粒のこぼれてあるや苔の花　同
徒捲いて馬賊逃げ行く夏野哉　鶴城
撫束の宿に御便の娘あり若の花　同
夏野過ぐ馬に水やる一軒屋　桂川
是一つ草に流るゝや夏野原　同
夕焼の小牛に作るゝ夏野哉　一節
唯中に昇り聰へる夏野原　同
雲嶺や水泳の上衣干す堤　狐秋
雲嶺や馬上遙かに町涼し　烏
草踏めば水に皆あり苔の花　同
針鷺者の臍こらだしや夏羽織　同
火燧に影浮く蝦や蜘蛛走る　奇石
雄五積みて貨車臉びけり夏野原　同
草一つ動かぬ朝や夏野原　佐女
蜘蛛の子の散る朝鹿鳥立にけり　同
體型の手折る雞頭や蜘蛛の糸　神岳
鷺に夏野擁ころ退風哉　同
浅淺さに水鶏や雹の降る　悠々
摂原に通ふ夏野の雛哉　友
月草の人無ひ咲ける夏野哉　先
夏羽織首日紅の九十日　同
蜘蛛退ふて白紙に風もなかりけり　同
湯女の噂のさびし心や苔の花　同

新刊紹介

▲活動寫眞雑誌（十月號）例に依つて最近のフヰルム、歐米名優の寫眞版を以て卷頭を飾り新らしき映畫と云ふ映畫の梗概及び外國キネマ界の實情を紹介す『戀の一念寄光五郎我長治郎グロリア譯』の米國名優訪問記』等面白く『突如同作見物の大擧を許せ』と題する各名家の意見は我キネマ界の爲めに氣を吐くもの偵本號には三百圓懸賞の活動脚本募集あり活動通の讀むべき雑誌なり（一部二十八錢東京赤阪共社）

▲一大帝國（二ノ一〇）一部十六錢東京芝琴平町二共社

▲大陸（五）なや支那の時局紛糾して世人の暗風は一に支那大陸に向て注がるゝとき此雑誌の如き熱肉にして材料確實なる大陸京門雑誌あるは吾人の大に意を强ふするに足る所なり（一部二十錢大連浪路町一八共社）

▲農業世界（九）農業雑誌中の最も上乘なるものにして價格の低廉なるも其の特色ならん（一部二十錢東京本町博文舘）

▲保險新聞（七の一二）一部九錢東京神田北神保町八共社

▲英語精習（五の三）一部十五錢東京芝南佐久間町一ノ一共社

▲鮮滿之工業（九）一部二十錢京城旭町一ノ七共社

▲我が家（一の七）一部五錢東京麴町飯田町二ノ五二帝國在郷軍人會本部

▲獨逸語靑年（創刊號）一部十五錢東京本鄕龍岡町三四共社

▲世界公論（八の九）一部十七錢東京小石川大塚窪町二四共社

▲實業新報（二五の二九四）一部十八錢東京日本橋濱町一四共社

▲大田實業協會月報（二の八）忠南大田實業協會

▲副業の研究（二の九）一部十八錢東京本鄕千駄木四七共社

▲現代俳風（二の九）一部十三錢東京小石川雷羽九ノ一俳風會

▲受驗豫備數學考へ方（一の一）一部十七錢東京神田北神保町一三考へ方研究社

▲金星（九）一部二十五錢東京麴町有樂町一ノ三共社

▲英和文新東洋（一の四）一部五十錢東京麻布市兵衛町二の二二新東洋社

▲コロニー（八）一部二十錢東京東鶴上駒込三六六殖民タイムス社

▲新小説（九月號）評論としては國際戰の將來（生田長江）私學經營者の理想（大山郁夫教授）日本勞働者の特質と將來の勞働問題（鈴木文治）等讀むべく小説には赤西蠣太の戀（志賀直哉）小山老人（正宗白鳥）不安な男（徳田秋聲）天守物語（泉鏡花）等あり其他黒き眼面の男カイゼル、貧成ものがたり、私娼跳梁誌等興味ある文學尠なからず（一部三十錢東京日本橋區通春陽堂）

讀者の領分

▲我が禮智洞にはどう云ふものか川側に草家が五六軒建つて金銀細工などをして居りますがあれは外に無いばかりでなく體裁も非常に悪い殊に洪水の時が第一危險ですから若し浚渫が急に實行されぬやうであつたらあの家だけは早く取り除けて置きたいと思ひます（禮智洞生）▲京城の生命保險屋中に保險金を支拂はぬ會社がある目下裁判になつて居るが彼の結果は何とか貴紙で詳報して下さい（被保險者）▲水標橋川の氾濫は決して川筋居住者ばかりの問題ではない京城人士たるものは此際應急の方法に就て研究して貰ひたいものだ（川筋の一平民）▲坂出總督府技師の御話の中に府の事業として來年度には水標川の浚渫をすることに成つて居るとありますが何日頃から著手されませうか（御願生）▲過日某所で斷會をやつて二三百圓集めた某醫伯は其金で娼妓を受け出す事になつたが未だ少し足だから又た揮毫會をやると勸誘中だから諸君注意し給へ其の樣な金を出してやる馬鹿もまさかあるまい（南宗派）▲私も水標川に土砂の流れ込むことは知つて居りますが坂出技師の話に依ると一箇年數千萬立方尺と云ふから驚くではありませんか（一驚生）

帯あげ　帯しめ　半ゑり　御帯　片帯
京城旭町一丁目　ゑり治商店　電話二五六二番

年期刺繡弟子十五歳位の者募集

商況

東京期米（八日前場）

大阪三品特電　八日後場

[illegible]

▲八日後場　各地俵寄米客なし大阪前止め二十圓八十錢と安移りにて當地當限米不出中十八圓七十七錢先[illegible]

▲強硬伸懸む　各地入電に大阪前止安を受けて十七圓二十三錢と小甘く寄付きたるも押目は行路面にてヤリしに上向の折柄大阪上寄跡強騰を受けて各限より買物現はれ三十五錢と上伸したる[illegible]

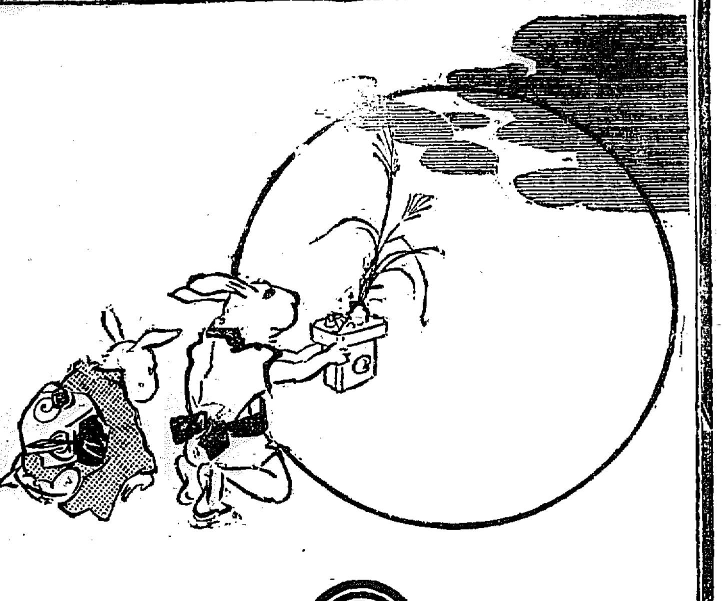
▲大混戰商盛　後場大阪の強き電報を報じたるより市場は大商盛を見るに至り立會毎に大混戰大激戰を演出したるより各店の手振取調べの餘地なかりし

▲仁川現物界　動油斷ならず休日越し[illegible]前果して如何居れり　百餘叺川來たり跡気配は別段變らず保合を唱へ　地拂玄米十八圓よりニ十錢迄にて三

▲白川小麥十圓二十五錢　延安小麥九圓九十錢[illegible]

▲本日越市[illegible]、大阪の成行[illegible]

塲所	拂値	十七圓三十四錢
安値		十七圓二十三錢
出来高	四萬八千五百五十石	
十月限		七萬六千七百五十石
十一月限		六萬九百五十石



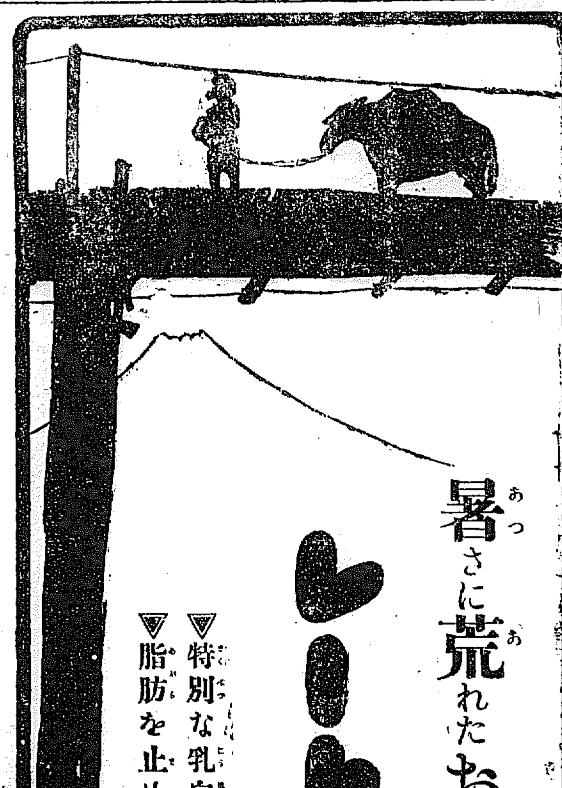
清風明月

容貌に一點の曇りなき肌となるには

ウヅマキ石鹸を日毎に御愛用なさいませ

石鹸は
皮膚を刺戟するものであつてはならぬ、垢を除るのはよいが防脂を除り過ぎるものであつてはならぬ……
ウヅマキ石鹸は以上の條件に適つた全く理想の石鹸です。

東京本舗　横山町　天野源五郎



暑さに荒れたお肌を整へる

レート乳白化粧水

▽特別な乳白分子がお肌の素質を整調へます
▽脂肪を止めお肌を滑に血色を鮮に致します

レート本舖　東京　平尾賛平

志　お

秘密ヲ守リ丁寧ニ精々高價御預リ可申候也

櫻谷質舗

京城北米倉町三六〇（兵營前小路）電話二六五四番

ぢの薬

商標　登録

内用　清痔丸
外用　清痔劑

◎兩劑を併用すれば面白い程能効あり

賣藥　内用錢　外用同價

本舗　名古屋京町　徳川長太郎

◎全國到る處の藥店に販賣す

髪は手入

髪の良き人には愈良く惡き人は一度で忽ち漆の黒さとする

植物性美毛劑加味

ホーカー美髪液

國產純良の椿油を以て精製したる作品にして、毛髪の色艶、發育をよくし、クセ毛を直し、頭垢を去り香ひ豐にして從來一品もなき優良美髪料

定價　小瓶廿錢（送料内地當店負擔、當鮮廿錢）

ホーカー液本舗　東京和泉橋　堀越嘉太郎商店（振替東京一五六）

一滴で永く爽快なる

ツバメ香水

世界名花の精を集めた、氣高き床しき芳香は永久に交際社會に愛用せらる!!

大阪　東京　丹平商會發賣

全國化粧品店及賣藥店にあり